

ICTを活用した21世紀型スキル教育実証事業研究大会 開催要領



日時 平成 29 年 6 月 23 日 (金)
場所 西条市立神戸小学校

西条市・西条市教育委員会

目 次

I	実施要領	1
II	会場案内図	2
III	公開授業等	
1	公開授業一覧	3
	授業デザイン ①～⑩	4 ～ 14
2	教育用クラウドを活用した校務の情報化説明会	15
IV	モデル校における取組	16
V	西条市における取組	25
1	整備の内容	26
2	成果	27
3	校務の情報化について	33
4	ICT支援員について	42
5	今後の取組について	44
VI	その他の取組	46
	文部科学省委託事業	
	「人口減少社会におけるICTの活用による教育の質の維持向上に係る実証事業」	

I 実施要領

1 目 的 文部科学省が推進する教育の情報化の政策に基づく西条市の取組みを広く公開し、教育の情報化への取組についての理解を深めるとともに、活発な情報交換を行うことで、学校教育の発展に寄与することを目的とする。

2 大 会 名 ICTを活用した21世紀型スキル教育実証事業研究大会

大会主題 「21世紀型スキルを培うための効果的なICTの活用」

3 大会概要 大会主題に基づき、普通教室等における電子黒板類・タブレット等の活用と、これらの利活用をサポートするICT支援員についての公開授業を行う。あわせて、教育クラウド及びこれらの環境を活用した統合型校務支援システム、グループウェア、テレワーク等による校務の情報化の取組も紹介する。
全体会では、文部科学省による政策説明および有識者による授業講評、基調講演等を行う。

4 主 催 西条市・西条市教育委員会

5 後 援 文部科学省・愛媛県教育委員会・愛媛県小中学校校長会

6 日 時 平成29年6月23日（金）

7 場 所 西条市立神戸小学校 愛媛県西条市洲之内甲200番地

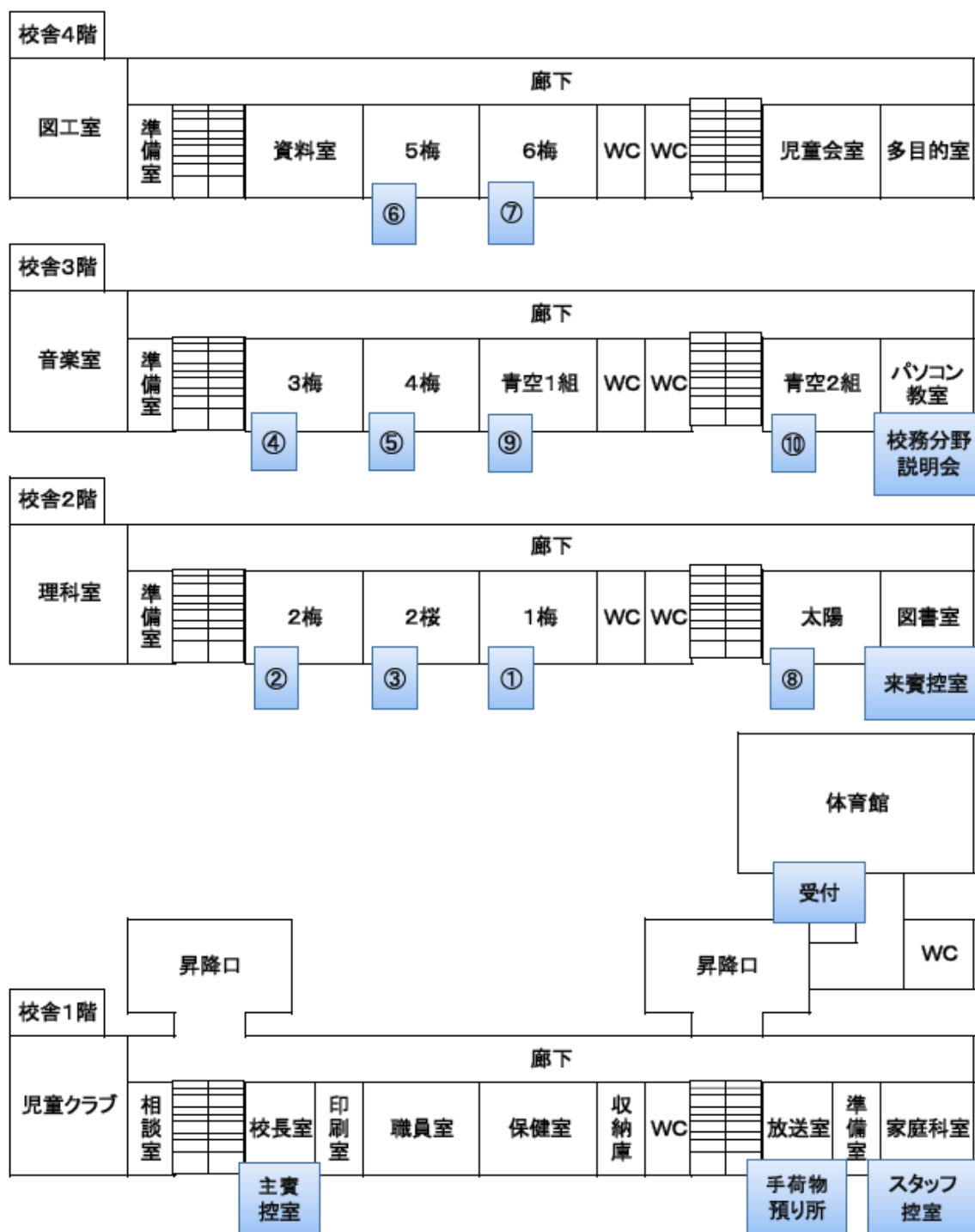
8 日 程

12:45 13:15 14:00 14:15 14:30 14:55 15:25 15:35 16:35 16:40

受付	公開 授業	移動	全 体 会					
			開会 行事	授業 講評	施策 説明	休憩	基調講演	閉会 行事

■ 開会挨拶	西条市	市長	玉井 敏久
■ 授業講評	国立大学法人東京学芸大学教育学部	教授	川崎 誠司 氏
■ 施策説明	文部科学省生涯学習政策局情報教育課	課長	梅村 研 氏
■ 基調講演	国立大学法人鳴門教育大学大学院	准教授	藤村 裕一 氏
■ 閉会挨拶	西条市教育委員会	教育長	柳瀬 康治

Ⅱ 会場案内図



※ 各教室に付された番号は、次ページの公開授業の番号と一致します。

Ⅲ 公開授業等

1 公開授業一覧

番号	学年・組	教科等	単元名	授業者	活用する ICT 等
①	1 年梅組	算数	いろいろな かたち	白石 智子	電子黒板、 タブレット PC
②	2 年梅組	生活科	大きくなあれ わたしの野さい	寺尾 由香	電子黒板、 タブレット PC
③	2 年桜組	音楽	がっきでドレミ	中塚 葵	電子黒板、 タブレット PC
④	3 年梅組	国語	気になる記号	藤井 亜希子	電子黒板、 タブレット PC
⑤	4 年梅組	道徳	いじめをなくす ために 「わたしのせいじ ゃない」	青野 美加	電子黒板、 タブレット PC
⑥	5 年梅組	社会	米づくりの さかんな地域	原田 臣士	電子黒板、 タブレット PC
⑦	6 年梅組	算数	円の面積	十亀 亮一	電子黒板、 タブレット PC
⑧	太陽学級	自立活動	いえるかな、 すてきなことば	山田 ひろみ	電子黒板、 タブレット PC
⑨	青空 1 組	自立活動	お話を作ろう	松井 八重	電子黒板、 タブレット PC
⑩	青空 2 組	国語(4 年) 算数(6 年)	一つの花 円の面積	宮崎 雅延	電子黒板、 タブレット PC

※ 上記の内容には変更が生じる場合がございますのでご了承ください。

※ 上記「番号」は、前ページの会場案内図の番号と一致します。

授業デザイン ①

1 年梅組	算数	いろいろなかたち	西条市立神戸小学校 白石 智子
-------	----	----------	--------------------

本時のねらい
身の回りの立体を、形の特徴に着目して仲間集めをする。 立体図形を触ったり分けたりする活動を通して、立体図形の特徴や機能について理解を深める。
主に活用した ICT 機器・教材・コンテンツ等とそのねらい
電子黒板、タブレット P C、協働支援システム： ペアで考えた仲間分けの様子をタブレット P C で撮り、電子黒板に映して、考えを発表したり比較したりする。
授業を実施する上でのポイント（「学びあい学習」との関連）
箱や空き缶のどのような特徴に気付いたかを話し合うために、ペアでの「学びあい学習」を取り入れる。

学習の流れ	分	主な学習活動と内容	○ ICT 機器・コンテンツ等 ● 「学びあい学習」との関連
本時の展開	導入 10	1 前時に、箱や空き缶を使ってどのようなものをつくったかを思い出す。 学習問題 はこのかたちにきをつけて、なかまわけをしよう。	○ 前時の活動が想起しやすいように、電子黒板を使って、活動の様子の写真を提示する。
	展開 30	2 形の特徴や機能に着目しながら、仲間分けをする。 3 分けた理由をもとに、分けた仲間に名前を付ける。 4 分けた仲間を発表する。	● ペア学習を取り入れ、形のどこに着目して仲間分けをしたかを話し合うことで、立体図形の特徴に気付かせるようにする。 ○ 考えた仲間分けの様子をタブレット P C から電子黒板に映し、発表したり比較したりする。
	まとめ 5	5 それぞれの仲間の特徴をまとめる。 ゴール 立体図形の特徴で仲間分けをすることができる。	

授業デザイン ②

2年梅組	生活科	大きくなあれわたしの野さい	西条市立神戸小学校 寺尾 由香
------	-----	---------------	--------------------

本時のねらい
育てている野菜の苗を観察し、友達との交流を通して自分の野菜の苗の成長している様子に気付き、栽培への意欲をもつ。
主に活用した ICT 機器・教材・コンテンツ等とそのねらい
電子黒板、タブレットPC： 電子黒板やタブレットPCを使うことで、大きく映し出し、細かなところにも気付くことができ、全体で共有できるようにする。
授業を実施する上でのポイント（「学びあい学習」との関連）
タブレットPCで撮った写真を電子黒板で大きく示して、全体で紹介し合う。また、相違点を見つけるためにタブレットPCで撮った写真を拡大しながら見ることで、より焦点化して話し合うことができる。

学習の流れ	分	主な学習活動と内容	○ICT 機器・コンテンツ等 ●「学びあい学習」との関連
本時の展開	導入 5	1 前時までの学習を想起し、課題をつかむ。 学習問題 育てている野菜の苗のひみつを伝えよう。	○ 前時までの学習を思い出し、学習意欲を高められるように、電子黒板でこれまでの学習を提示する。
	展開 30	2 自分が育てている野菜の生長の様子や特徴、気付いたことを発表する。 ・ 観察する時のポイントを確認する。 見る・触る・匂う・大きさ・長さ・色など 3 発表を聞いて、気付いたことや思ったことを話し合う。	● 発表しやすいように、同じ野菜を育てている友達とグループになり、もう一度自分たちの野菜のひみつを確認する。 ○ 見てほしいところに印をつけるなどして、野菜の写真を提示して、分かりやすい発表になるようにする。 ○● 野菜の特徴が分かりやすいように、拡大機能のあるタブレットPCで写真を拡大しながら、気付いたことを話し合う。
	まとめ 10	4 本時のまとめと振り返りをする。 ・ 分かったことや感想を記録カードにまとめる。 ゴール それぞれの野菜の生長に気付き、大切に育てていこうとする意欲をもつ。	

授業デザイン ③

2 年桜組	音楽	がっきでドレミ	西条市立神戸小学校 中塚 葵
-------	----	---------	-------------------

本時のねらい
動物の様子を表すリズムフレーズに 2 音で旋律をつけて「動物の音楽」をつくり、自分の思いに合った表現をする楽しさを味わう。
主に活用した ICT 機器・教材・コンテンツ等とそのねらい
協働学習支援システム： タブレット P C（教師用）と電子黒板とを連動させ、旋律をつなぐ際の留意点の共有化を図る。
授業を実施する上でのポイント（「学びあい学習」との関連）
つくった旋律を終止感に気を付けながらグループでつなぎ、拍の流れによって鍵盤ハーモニカで演奏する。

学習の流れ	分	主な学習活動と内容	○ICT 機器・コンテンツ等 ●「学びあい学習」との関連
本時の展開	導入 5	1 今月の歌を歌う。 2 リズムゲームをする。 3 前時までの振り返りをする。 学習問題 リズムにせんりつをつけて、どうぶつ のようすがあらわれるようにえんそう しよう。	○ のびのびと歌えるように、 電子黒板に歌詞を提示する。 ● ペアで拍の流れによって リズム打ちをし、いろいろな リズムパターンを確認する。
	展開 30	の 2 音で旋律をつけ、鍵盤ハーモニカで 演奏する。 5 つくった旋律を「続く感じ」「落ち着 く感じ」に気を付けながら、ペアやグル ープでつなぎ演奏する。	● つくった旋律を終止感に 気を付けながらペアやグル ープでつなぎ、よりよい「動 物の音楽」をつくる。 ○ タブレット P C（教師用） と電子黒板を連動させ、旋律 をつなげる際の留意点の共 有化を図る。 ● 「動物の音楽」を拍の流れ によって鍵盤ハーモニカで 演奏し、表現する楽しさを味 わう。
	まとめ 10	6 発表する。 7 学習を振り返りまとめる。 ゴール 音を音楽にしていくことを楽しみな がら、自分の思いに合った表現を することができる。	○ つないだ旋律を書画カメ ラで映し、全体で共有する。

授業デザイン ④

3年梅組	国語	気になる記号	西条市立神戸小学校 藤井 亜希子
------	----	--------	---------------------

本時のねらい
報告文の組立を理解し、必要な事柄を分析し、構成メモに整理することができる。
主に活用した ICT 機器・教材・コンテンツ等とそのねらい
・ タブレットPCで撮影した構成メモを、電子黒板に提示し、全体で共有する。そして、観点をもとにして分析・整理できているかを確認し合う。 ・ 作業につまずいている児童に対して、スムーズに進んでいる児童の構成メモをタブレットPCで撮影し、ヒントカードとして示す。
授業を実施する上でのポイント（「学びあい学習」との関連）
小集団での話し合いにより、報告文を書くために必要な事柄を、「事実」と「感想」に整理できるようにする。

学習の流れ	分	主な学習活動と内容	○ICT 機器・コンテンツ等 ●「学びあい学習」との関連
本時の展開	導入 5	1 前時の活動を振り返り、本時の学習問題を確認する。 学習問題 「分かったこと」と「考えたこと」を分けて、本文のこうせいメモを作ろう。	○ 前時に作ったメモを電子黒板で提示し、分析の仕方を確認する。
	展開 35	2 「山口さんのほうこくする文章」に書かれてある内容を分析・整理しながら、構成メモを作る。 3 構成メモの組立を確認する。 4 班ごとに選んだ記号を分析し、報告文に必要な事柄を整理しながら、構成メモを作る。 5 構成メモを全体で共有し、「事実」と「感想」を区別して書けているかどうかを確認する。	○ 思考の助けとなるように、分析につまずいている児童には他の児童の構成メモをタブレットPCで提示する。 ● 報告文の組立を捉えやすいようにワークシートを準備し、グループで話し合いながら、分析・整理する。 ○ 発表が伝わりやすいように、タブレットPCで構成メモを撮影し、電子黒板で共有する。 ● グループで助言し合いながら、記号について分析・整理し、構成メモを作成していく。 ○ クラス全体で気づきを共有できるように、電子黒板に構成メモを提示しながら発表を行う。
	まとめ 5	6 学習のまとめをする。 ゴール ほうこくする文章は、「分かったこと」（事実）と「考えたこと」（感想や意見）を分けて書くことが大切である。	

授業デザイン ⑤

4 年梅組	道徳	いじめをなくすために 「わたしのせいじゃない」	西条市立神戸小学校 青野 美加
-------	----	----------------------------	--------------------

本時のねらい
誰に対しても分け隔てをせず、公正・公平に接しいじめを解決しようとする態度を育てる。
主に活用した ICT 機器・教材・コンテンツ等とそのねらい
・ 電子黒板：プレゼンテーションで絵本の挿絵・発問などを提示する。 ・ 協働学習支援システム：グループで相談しながら考えを出し合い、短い言葉でまとめてタブレット P C に書いたものを送信し、全体で共有して話し合いを深める。
授業を実施する上でのポイント（「学びあい学習」との関連）
「学びあい学習」により、班で話し合ったことをタブレット P C に書き、送信して全体で共有し、学習問題についての解決を図る。

学習の 流れ	分	主な学習活動と内容	○ ICT 機器・コンテンツ等 ● 「学びあい学習」との関連
導入	5	1 いじめが奪うものは何かを発表し合い、学習問題をつかむ。 学習問題 「見て見ぬふりをするについて考え、いじめをなくすために自分にできることを見つけよう。」	● 「学びあい学習」との関連 ● ねらいとする価値への方向付けをして「学びあい学習」に生かす。
本時の展開	35	2 学習問題について、資料を手掛かりにして自分を振り返りながら考える。 ・ どうして見て見ぬふりをしてしまうのか、その立場に立って考え、自分ならどうするかを話し合う。 ・ 班で話し合ったことをタブレット P C に書く。 ・ 全体の意見を見て、「どうしたら見て見ぬふりをする人を変えることができるのか」について話し合いを深める。 3 いじめを解決するにはどうしたらよいか考える。 ・ 人によって態度を変えず、見て見ぬふりをする人がいなくなるように、何か行動を起こす。 ・ 見て見ぬふりをする人がいなくなって、みんなでいじめをする人を止める。 ・ いじめられている人の気持ちを考え、味方になる。	● 「学びあい学習」で資料の中の「見て見ぬふりをする人」の立場で、どうして見て見ぬふりをしてしまうのかを本音で考えられるようにする。 ○ タブレット P C に各班で話し合ったことのキーワードを書き、送信することにより、全体で共有し、話し合いを深める。 ○ 各班のキーワードが出揃ったら、再配信して、班同士の話し合いにつなげる。
まとめ	5	4 いじめをなくすために自分にできることを見付ける。 5 教師の説話を聞く。 ゴール いじめをなくすために、誰に対しても見て見ぬふりをしないで、行動することの大切さに気づき、自分にできることを見付ける。	● 出た意見の中で自分にできることを見付けられるようにする。

授業デザイン ⑥

5 年梅組	社会	米づくりのさかんな地域	西条市立神戸小学校 原田 臣士
-------	----	-------------	--------------------

本時のねらい
庄内平野の米づくり農家は、協力して作業をしたり、仕事を請け負ったり、共同で機械を使用したりしていることが分かる。
主に活用した ICT 機器・教材・コンテンツ等とそのねらい
協働学習支援システム： グループで話し合った考えを全体で共有するために、児童用タブレット P C と電子黒板を連動させ、必要な資料等を瞬時に提示する。
授業を実施する上でのポイント（「学びあい学習」との関連）
自分たちの考えを伝えるために、デジタル教科書や書画カメラ、タブレット P C など、適した機器等を選択し、資料やキーワードを提示しながら説明することができる。

学習の流れ	分	主な学習活動と内容	○ ICT 機器・コンテンツ等 ● 「学びあい学習」との関連
本時の展開	導入 5	1 前時の学習を想起し、学習問題を確認する。 ・ 米づくりの 1 年には、たくさんの仕事があった。 ・ 機械を使ったりもしている。 学習問題 岡部さんたち農家の人々は、どのような工夫や努力をして米づくりをしているだろうか。	○ デジタル教科書の映像等を活用して、前時の学習を振り返る。 ● 「学びあい学習」との関連
	展開 3 5	2 資料をもとに、どのような工夫や努力を見付けたか、グループで話し合う。 ・ 農業機械の共同使用 ・ 水の管理 ・ 勉強会 3 資料やキーワードを示しながら、全体で交流する。 4 工夫や努力の理由を考える。 5 全体で交流する。	● 根拠となる資料を示しながら話し合う。 ○ ● グループでまとめた意見をタブレット P C 等必要な機器を使って発表し、全体に伝える。
	まとめ 5	6 学習問題に対する考えをまとめる。 ゴール 農業機械を共有したり、作業時期の相談をしたりするなど、共同作業をして、生産の効率が高まるようにしている。	

授業デザイン ⑦

6年梅組	算数	円の面積	西条市立神戸小学校 十亀 亮一
------	----	------	--------------------

本時のねらい
複雑な形をした図形の面積の求め方を既習事項をもとに考え、図や式を使って順序立てて説明することができる。
主に活用した ICT 機器・教材・コンテンツ等とそのねらい
協働学習支援システム： 班で話し合った内容を、思考の手順がわかるようにタブレットに書き、送信して全体で共有化を図る。 学習探検ナビ： 複雑な形の図形から既習の図形を見付ける手がかりとして活用する。
授業を実施する上でのポイント（「学びあい学習」との関連）
面積の求め方を班で伝え合い、自分たちの考えた方法が他の班の友達に伝わるように表現方法を話し合う。

学習の流れ	分	主な学習活動と内容	○ICT 機器・コンテンツ等 ●「学びあい学習」との関連
本時の展開	導入	1 既習事項を復習する。 ・ 円や扇型の面積の求め方を確認する。 学習問題 習ったことを組み合わせて面積を求め、順序立てて説明しよう。	● ペアで確認し合い、順序立てて説明できるようにす
	10	2 複雑な形の図形の面積の求め方（共有の課題）を考える。 ・ 図形を電子黒板で提示し、隠れている図形をペアで話し合う。 ・ 見つけた図形をもとに面積を求める方法について、図を用いた式で考え、面積を求める。	○ 学習探検ナビを使い、隠れた図形を視角化する。
	展開	3 より複雑な図形の面積の求め方（ジャンプの課題）を班で考える。 ・ 班で相談し合いながら、求め方の手順をタブレット PC に書き込む。 ・ 面積の求め方を全体で共有する。	● 班の全員が説明できるよう話し合う。 ○ 進んでいる班のタブレットの画像を電子黒板に映し出し、困っている班のヒントとする。
	まとめ	4 本時の振り返りをする。 ゴール 複雑な図形の面積を、既習事項を用いて求め、順序立てて説明することができる。	

授業デザイン ⑧

太陽学級	自立活動	いえるかな、すてきなことば	西条市立神戸小学校 山田 ひろみ
------	------	---------------	---------------------

本時のねらい
「ありがとう」は、言っても言われてもうれしくなるすてきな言葉だということを知り、「ありがとう」を言う練習をする。
主に活用した ICT 機器・教材・コンテンツ等とそのねらい
Apple TV：「ありがとう」を言う練習をする場面で、ミラーリングすることにより、自分の姿を確かめたりポイントを共有したりする。 タブレットPC：練習をするときにアプリを活用することにより、個に応じて活動する。 電子黒板：動画を視聴することにより、「ありがとう」を言うことの大切さに気付く。
授業を実施する上でのポイント（「学びあい学習」との関連）
自分や友達が「ありがとう」と言う様子を電子黒板にミラーリングすることにより、自分の言い方と比べたり、言うときの声や表情のポイントを共有したりする。

学習の流れ	分	主な学習活動と内容	○ICT 機器・コンテンツ等 ●「学びあい学習」との関連
本時の展開	導入 5	1 設定場面を見て、学習問題を確認、本時の流れを知る。 学習問題 こんなとき、なんといえればいいのかな	○ 問題場면을提示して、自分の生活を振り返る手がかりとする。
	展開 35	2 「ありがとう、いえるかな」を視聴し、「ありがとう」を言う大切さに気付く。 3 「ありがとう」を言うときのポイントを話し合う。 ・顔を見て言う。 ・にっこり笑顔 4 顔まねあそびをする。 5 「ありがとう」を言う練習をする。 6 「ありがとう」を含む、すてきな言葉を言う練習をする。	○ 「ありがとう」を言う大切さに気付かせるために、電子黒板で映し、必要に応じて画面を止めながら言葉掛けをする。 ●○ 自分の活動を客観的に確かめたり共有したりするために、練習をタブレットPCで撮影し、電子黒板にミラーリングする。 ○ 個に応じて練習できるように、タブレットPCを活用する。
	まとめ 5	7 いろいろな場面設定で、「ありがとう」を言う。 ゴール 相手の行動に対して、「ありがとう」を言う。	● 自信をもって言えるようにしたり、互いにうれしさを感じたりするために、実態に合わせてペアで活動する。

授業デザイン ⑨

青空 1 組	自立活動	お話を作ろう	西条市立神戸小学校 松井 八重
--------	------	--------	--------------------

本時のねらい
SSTの一つとして、お話作りを通して場面の状況を把握したり、自分の思いを絵や言葉で表現したりすることによって、友達とのかかわりの基礎を育てる。
主に活用した ICT 機器・教材・コンテンツ等とそのねらい
Komakoma for iPad：描いた絵を iPad で撮ってぱらぱらマンガを作成し、お話の中で登場人物の気持ちを想像して表現する。 Keynote：描いた絵を iPad で撮って電子紙芝居を作成し、場面の様子を説明したり吹き出しに入れる言葉を考えたりする。 電子黒板：iPad の画面を電子黒板に転送し拡大して提示しながら、作ったお話を紹介し合う。
授業を実施する上でのポイント（「学びあい学習」との関連）
お話を紹介し合ったり、自分の活動を振り返ったりすることを通して、相手の意見を聞いたり互いのよさに気付いたりする。

学習の流れ	分	主な学習活動と内容	○ICT 機器・コンテンツ等 ●「学びあい学習」との関連
本時の展開	導入 5	1 ウォーミングアップをする。 ・ 互いに問題を出し合いながら、スリーヒントクイズや言葉遊びにチャレンジする。 学習問題 宝物を探しに行くお話を作って紹介しよう（3年） 「ぼくの日」のお話を作って紹介しよう（1年）	● 仲よく活動できるように、互いにルールを確認する場を設定する。
	展開 35	2 前時までに作ったお話を振り返り、本時の活動を確認する。 ・ ぱらぱらマンガ（3年） ・ 電子紙芝居（1年） 3 続きのお話を作る。 ・ お話の構成メモをもとに、絵を描いたり会話文を考えたりする。（3年） ・ 一日の生活を振り返りながら、絵を描いたりふきだしを作ったりする。（1年）	○ iPad の使い方を確かめ、スムーズに活動に取り組めるようにする。
	まとめ 5	4 作ったお話を紹介し合い、活動を振り返る。 ゴール お話を紹介したり、お互いのお話のよかったことを発表したりできる。	● 作ったお話を紹介し合うことにより、自分の活動を振り返ったり、互いのお話に興味をもったりできるようにする。

授業デザイン ⑩

青空 2 組	算数 6 年 国語 4 年	円の面積 一つの花	西条市立神戸小学校 宮崎 雅延
--------	------------------	--------------	--------------------

本時のねらい
算数：複雑な形をした図形の面積の求め方を既習事項をもとに考え、図や式を使って順序立てて説明することができる。
国語：戦争中と戦争後の場面の变化に注意しながら、登場人物の気持ちの変化を読み取る。
主に活用した ICT 機器・教材・コンテンツ等とそのねらい
iPad： 6 年算数、4 年国語学習問題解決後の練習問題
電子黒板： 6 年算数学習探検ナビで隠れた図形の確認
授業を実施する上でのポイント（「学びあい学習」との関連）
算数：面積の求め方を伝えるように表現方法を考える。
国語：コスモスの花、食べ物、登場人物の行動に関する気づきを交流させる。

<算数 6 年>

学習の流れ	分	主な学習活動と内容	○ICT 機器・コンテンツ等 ●「学びあい学習」との関連
本時の展開	導入 5	1 既習事項を復習する。 ・ 円や扇型の面積の求め方を確認する。 2 複雑な形の図形の面積の求め方（共通の課題）を考える。 ・ 隠れている図形を見付ける。 ・ 見付けた図形をもとに面積を求める方法を図を用いた式で考え、面積を求める。	○ 学習探検ナビを使い、隠れた図形を視覚化する。
		学習問題 習ったことを組み合わせて面積を求め、順序立てて説明しよう。	
	展開 3 5	3 より複雑な図形の面積の求め方（ジャンプの課題）を解く。	
まとめ	5	4 本時の振り返りをする。 ゴール 複雑な図形の面積を、既習事項を用いて求め、順序立てて説明することができる。	○ 算数アプリで練習問題をする。

<国語4年>

学習の流れ		分	主な学習活動と内容	○ICT 機器・コンテンツ等 ●「学びあい学習」との関連
本時の展開	導入	5	1 「一つだけ」という言葉を追ってこれまでの読み取りを振り返る。 2 最後の場面を読み「一つだけ」という言葉が出てこないことを確認する。	
			学習問題 最後の場面に『一つだけ』という言葉が出てこないわけを書こう。	
	展開	35	3 次のことに気を付けてわけを考える。 ・コスモスの花 ・食べ物 ・登場人物の行動	● 気付きを交流させる。
本時の展開	まとめ	5	4 本時の振り返りをする。	
			ゴール 平和で穏やかな生活が送れるようになり、ゆみ子が頼もしく明るく生きていることを自分の言葉で書くことができる。	
				○ 漢字アプリで練習問題をする。

2 教育クラウドを活用した校務の情報化説明会

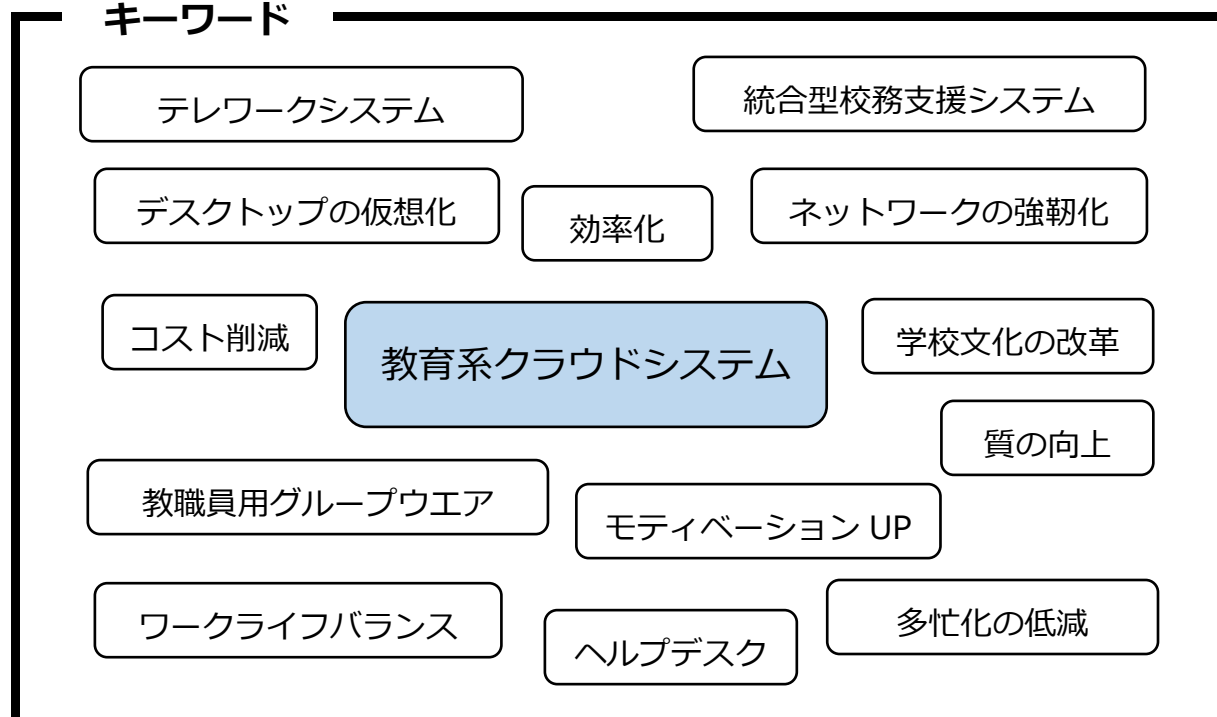
(注) 本説明会は、会場の収容人数に限りがあるため、**市外参加者**を対象とし、先着 40 名までとさせていただきます。どうかご了承ください。

本市では、「授業の情報化」のみならず、「**校務の情報化**」にも積極的に取り組んでいます。つきましては、当日の授業公開の時間を利用して、西条市における教育クラウドの構築による校務の情報化説明会を開催いたしますのでご案内申し上げます。

これからの学校教育にふさわしい環境整備について具体的にご紹介させていただきますので、ぜひご来場ください。

- 時 間 13時15分から14時00分まで
- 場 所 3階 パソコン教室
- 対象者 **市外参加者**（収容人数に限りがあるため先着約40名まで）
- 内 容 教育クラウドの構築による校務の情報化の全貌について

キーワード

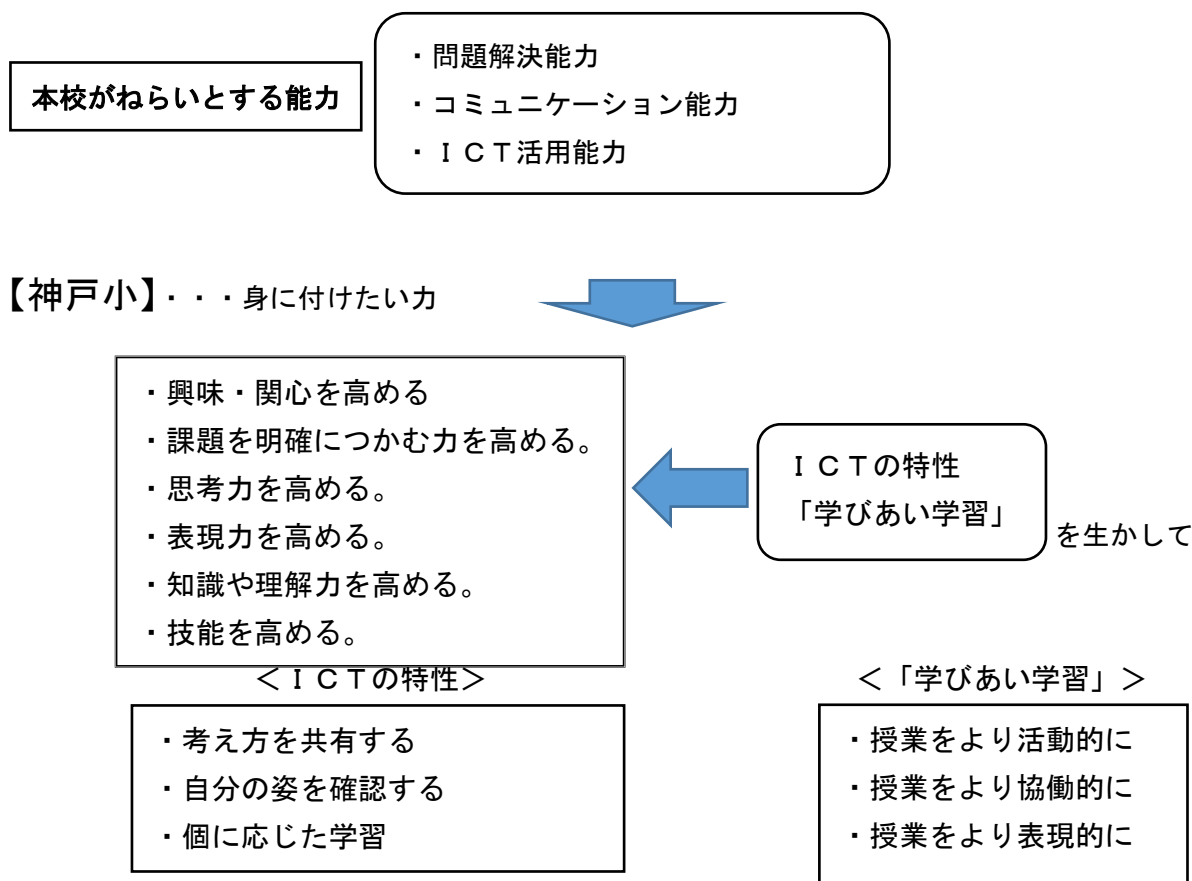


Ⅳ モデル校における取組

モデル校：西条市立神戸小学校（学校長：藤原 正三）

Ⅰ 研究の構想

「２１世紀型スキル」・・・これからの国際社会を生き抜く上で必要とされる能力



Ⅱ 研究内容の概要

西条市教育委員会より、平成２７、２８年度の２年間、「ＩＣＴを活用した２１世紀型スキル教育実証事業」の指定を受け、特にタブレットＰＣを活用したＩＣＴ活用とともに、「学びあい学習」の手法を取り入れた実践研究に取り組む。

- (１) 「確かな学力」を確立するための教育内容と指導方法の充実
- (２) 具体的実践事例を中心とした授業改善、指導と評価の一体化
 - ア 問題解決能力、コミュニケーション能力を育成する「学びあい学習」の工夫
 - イ タブレットＰＣを活用した授業の工夫
 - ウ 課題、指導、評価を明確にした授業の実践
- (３) ＰＤＣＡサイクルを生かした取組
- (４) 三部会（学習習慣部会・学習スキル部会・ＩＣＴ環境整備部会）での研究推進

Ⅲ 三部会実践

1 学習習慣部会の取組

(1) 学習習慣の確立（タブレットPCの活用において）

ア タブレットPCを使う場合

- ・グループまたはペアで使う時は、みんなが見やすい真ん中に置く。
- ・4人グループの場合、風車の形に机を配置すると、近くで見やすい。
- ・タブレットPCを使わない時は、裏を向けて置く。

イ タブレットPCを活用した場合のノートに残す工夫

- ・話し合う内容を先に書いておく。
- ・話し合いながら自分のノートに考えを書く。
- ・ふせんに考えをメモして貼る。
- ・ノートをタブレットPCで撮影してバイシンクに転送し、全体で共有した後、友達の見解などをノートに書き込む。
- ・ペア・グループで作った物やタブレットで保存したデータなどは、印刷して配布する。

（タブレット連携フォルダの活用）



ウ 板書の工夫

黒 板	電 子 黒 板
・授業全体を通して、残しておきたいもの （学習課題・活動の流れなど）	・一時的に写すもの、今注目してほしいもの （資料・補助的なものなど） ・前時の学習内容を保存しておいて活用



(2) 授業実践をふまえたタブレットPC活用の分析（タブレット実践記録表）

ア タブレットPCのよさ（特徴）

- ・個々への対応が可能になる
- ・気軽に持ち運ぶことができる
- ・1台で一連の学習ができる（情報収集、撮影、編集、表現）
- ・情報や各自の考えを共有できる

イ タブレットPCでできること・③④⑦⑧⑨⑩はタブレットPCならではの活用

①	文章などを読む	⑥	ラインを引く、図や写真などに書き込む
②	文字や文章を書く（打つ）	⑦	動かす
③	写真や映像を撮る	⑧	拡大する
④	写真や映像を見る	⑨	電子黒板などへ送る
⑤	音を聴く	⑩	保存する

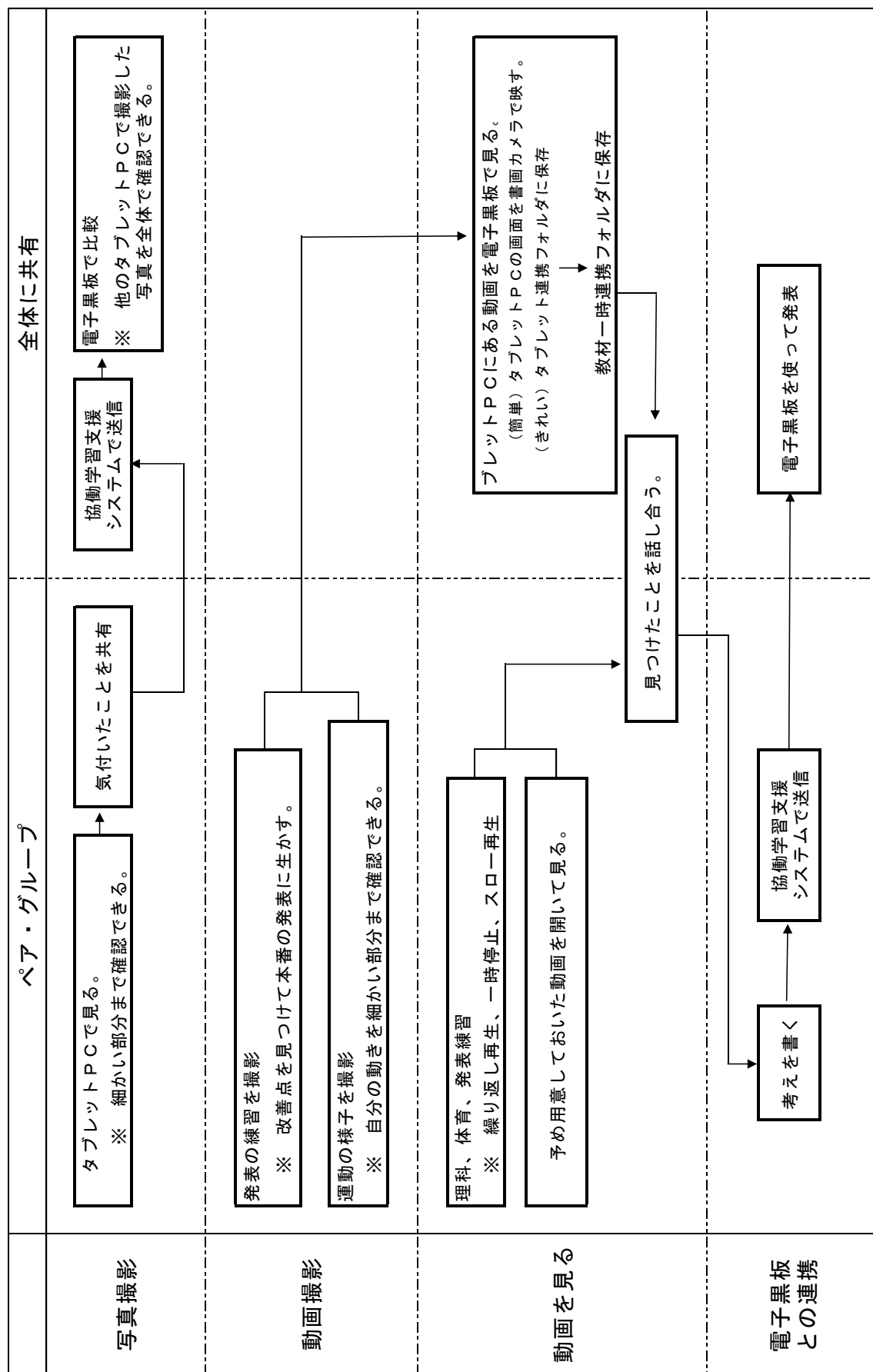
参考：『タブレット端末を活かす実践52事例』 放送大学 中川一史（）

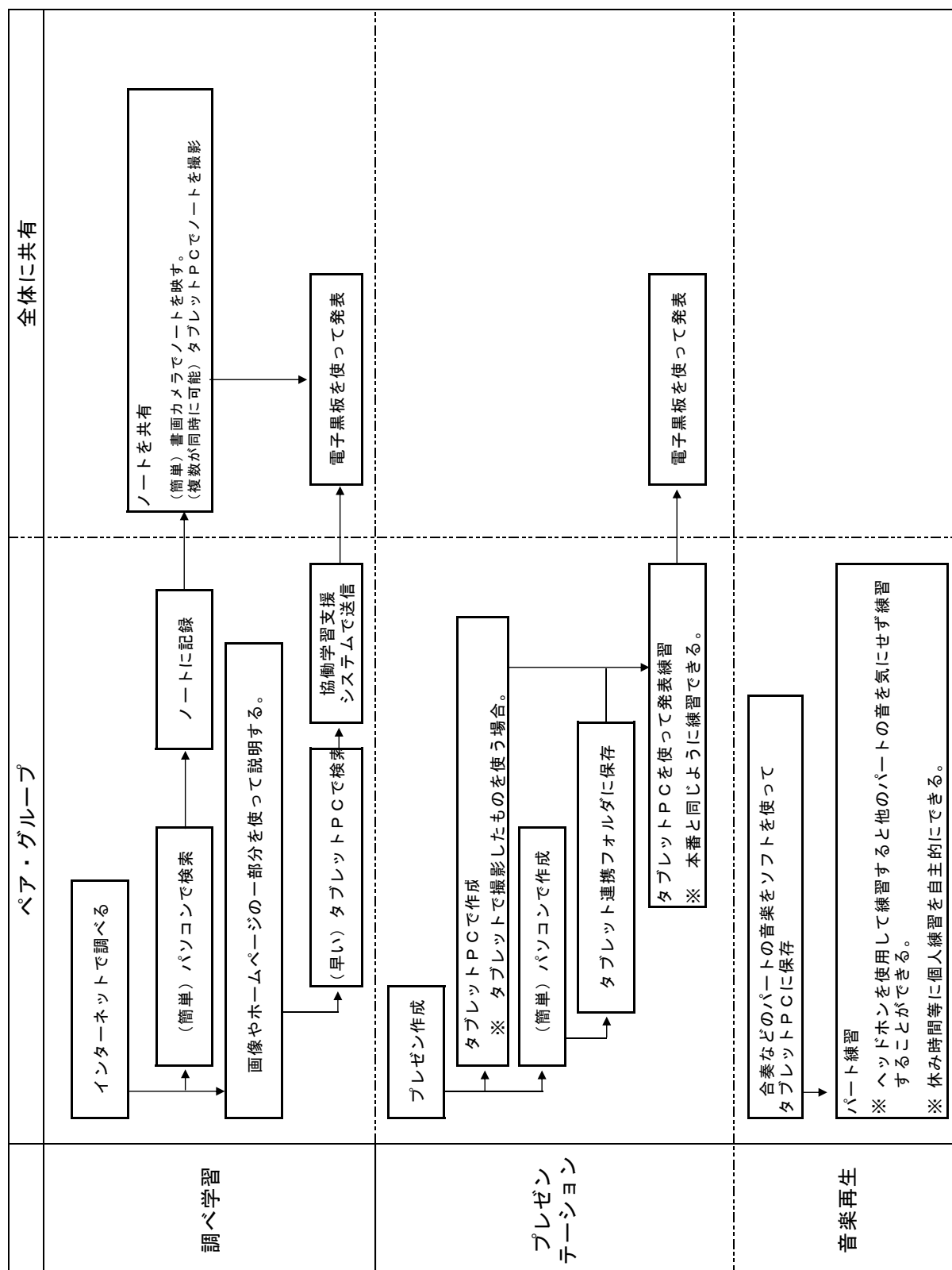
2 学習スキル（言語活動）部会の取組

（１）「学びあい学習」におけるタブレットＰＣの有効活用

学習の流れ	分	主な学習活動と内容	タブレットＰＣの活用→ポイント・効果
本時の展開	5	○前時の学習を想起し、学習課題をつかむ。 ・児童が追究したくなるような学習課題の設定 ・提示した資料から、新たな疑問が生まれるような学習課題	○ 電子黒板・デジタル教科書・書画カメラなどを使って提示した問題や資料・写真などを児童のタブレットＰＣに送信 → 児童の手元で拡大して見ることができ、学習課題をつかみやすくする。 ○ 前時までに児童のタブレットＰＣで撮影した写真や作成したポスター・発表資料などを共有フォルダから各タブレットＰＣで開く → よりよくするための視点を全体で確かめることにより、学習課題をつかむ。
	35	○〔共有の課題〕をする。 → 基礎 ○〔ジャンプの課題、練習問題〕をする。 学習形態 （個人） （ペア）（グループ） ・ノートやタブレットＰＣ等を見せたり示したりしながら説明 ・発表資料作成（タブレットＰＣで始めから終わりまで全ての作業ができる。） ・発表練習（動画撮影）（全体） ・タブレットシンクで送信し、全体で共有して、説明 ・プレゼンテーション ・討論 根拠を示し、理由付けをして意見を言う。	○ タブレットＰＣで写真を撮影 → 写真を見ながら出来事を詳しく思い出して伝える。 ○ タブレットＰＣで発表内容の練習を撮影 → 動画を見ながらより分かりやすい発表に改善する。 ○ タブレットＰＣで撮影した写真を項目ごとに整理して見直せるようにしておく。 → 思考の手がかりや分かりやすい発表につながる。 ○ 解決方法を考えてノートに書き、ペアやグループで相談して、ポイントだけをタブレットＰＣのホワイトボードに書く。 → ペアやグループでタブレットＰＣを共有することで話し合いが活発になり、思考が深まる。 ○ 解決方法を考えてノートに書き、ペアやグループで相談して、修正したノートをタブレットＰＣで撮影する。タブレットシンクで送信し、全体で共有する。 → ペア・グループ・全体へと共有しながら話し合うことで、思考が深まる。 ○ タブレットＰＣでインターネットで調べ学習をする。 → 分からないことを教室で自分のペースで調べ、課題解決につなげる。
	5	○学習を振り返る。 （自己評価「きりり」）	○ タブレットＰＣに書いた画面をパソコン室で印刷し、ノートに貼ると、学習の跡が残り、次時へとつながる。

「学びあい学習」に効果的な「タブレットPCの使い方」





(2) 年間指導計画におけるタブレットPC活用の位置付け

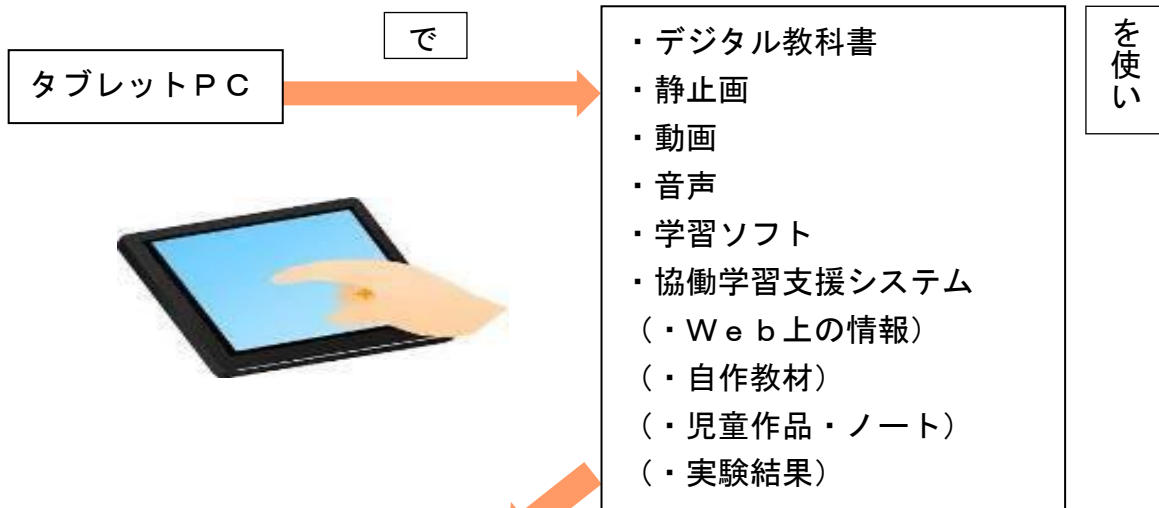
ア 授業の中でタブレットPCの活用が効果的であった単元、また効果的と思われる単元について、年間指導計画の中に記号で記入し、学期ごとに見直しをしながら活用していく。

この授業では…

神戸小の「き」「コン」「かん」「こん」

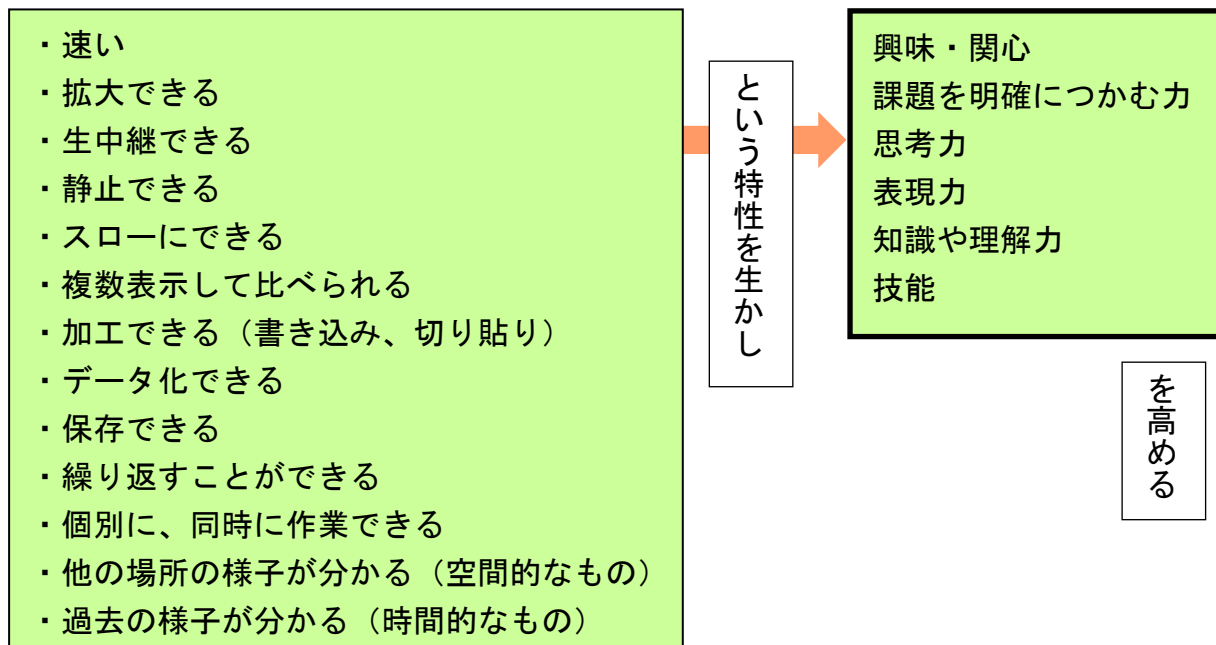
「き」—使用機器

「コン」—コンテンツ・教材等



「かん」—活用の観点

(「こん」—こんな力を)



<凡例>

T(タブレット)の後に(使用するコンテンツ・教材など)を記入する。
 デ(デジタル教科書) 静(静止画) 動(動画) 音(音声)
 学(学習ソフト) 協(協働学習支援システム) W(Web上の情報)
 自(自作教材) 児(児童作品・ノート) 実(実験結果)

3 ICT環境整備部会の取組

(1) タブレット機器等の整備状況

タブレットPC (TOSHIBA dynabook Tab S80) は、平成26年度に40台導入された。コンピュータのOSは、Windows 8.1である。付属品にタッチペンがあり、主に中学年以降の学年で使用をしている。



【タブレットPC (40台)】 【付属のタッチペン】

インターネットでの調べ学習、電子黒板とタブレットPCの連携学習を実施したい場合は、ルーター (Meru Networks (現 Fortinet) 無線LAN) を教室のLAN端子に接続し、活用することができる。

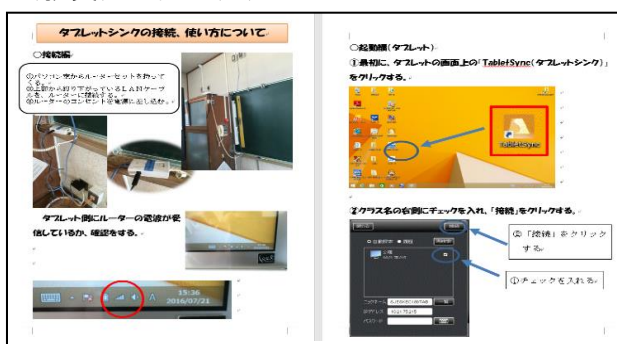


【無線LAN】

なお、タブレットPCの保管はパソコン室にある保管庫に収納している。低学年は学級担任、中学年以降は児童がタブレットPCを持ち運んだり、収納をしたりしている。情報教育主任やICT支援員が、タブレットPC収納状況 (電源が切れている、充電されているなど) や機器のアップデートを行いながら、定期的に保守点検を行っている。

(2) 操作マニュアルの作成、および使用規定 (教員用・児童用)

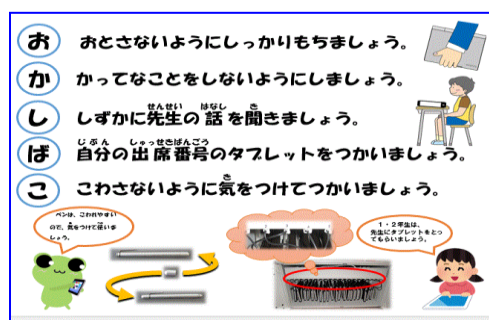
教員が授業の場で、タブレットPCや授業支援システム「xSync (バイシンク)」を、より効果的に活用することができるために、「操作マニュアル」を作成した。無線LANの接続からタブレットPCの起動方法、電子黒板で使用するソフトウェア (Master Sync (マスターシンク)) の立ち上げ、画面配信や比較提示など、教員の用途に応じてマニュアルを作成した。



【操作マニュアル (一例)】

またタブレットPCの使用規定を設け、授業で扱う場合、ダウンロードをする場合など、様々な基準を示すことで、全教職員が共通理解をしながら活用している。

さらに、昨年度からタブレット電源の入れ方や持ち運び方、シャットダウンの方法などを「おかしばこ」という合言葉でルールやマナーを表示し、低学年にも理解しやすいように示している。今年度は、昨年度の児童の使用状況や実態を踏まえ、タブレットPCのシャットダウン方法について一部変更をした。変更した内容については、学級担任だけでなく、ICT支援員のサポートにより、児童への周知を図った。



【タブレットPCのルール「おかしばこ」】

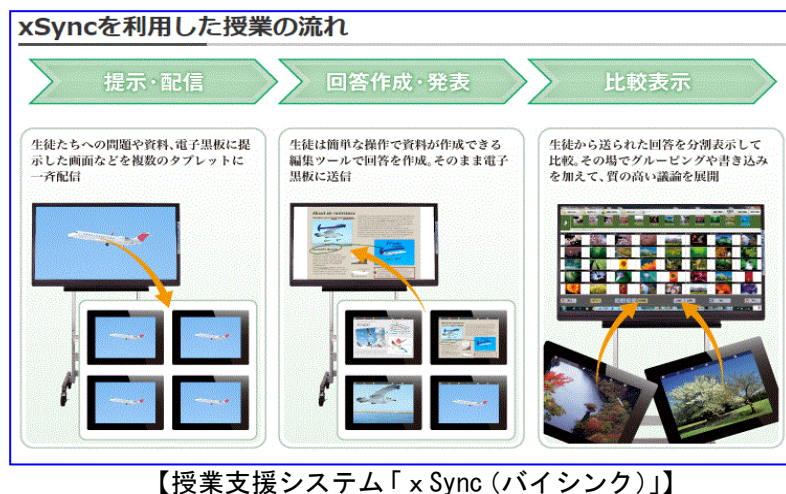


【電源の入れ方、シャットダウンの仕方など】

(3) タブレットPCの使用方法

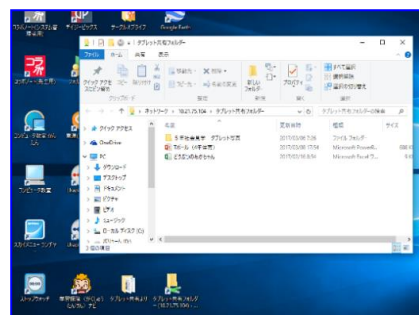
ア 授業支援システム「xSync」と電子黒板の連携について

タブレットPCは、授業支援システム「xSync（パイオニア VC）」と連動し、電子黒板と送受信することができる。電子黒板の内容をタブレットPCに提示をしたり、児童が書き込んだデータを電子黒板に送信して発表をしたりすることができる。また児童の書き込んだデータや写真を比較し、表示することもできる。



イ タブレットPCの印刷について

タブレットPCのデータや写真を印刷する場合は、ルーターを介してパソコン室のプリンター（RICOH IPSio SG7100）に接続し印刷することができる。印刷の指示をした場合、児童はパソコン室に移動して印刷物を確認する。



ウ タブレットPCとのデータ交換について

パソコン室のサーバー機に「タブレット共有フォルダ」を設置することで、サーバー機からタブレットPCへのデータ交換が、簡単にできるようになった。教員が授業で使用したいデータを「タブレット共有フォルダ」に保存しておき、児童がそのデータを活用することができる。また授業で作ったデータや写真を「タブレット共有フォルダ」に保存することで、次の授業の利活用や評価に生かすことができる。



【タブレットPC】



【パソコン室サーバー機】

(4) 学年別 I C T 機器等活用表について

各学年で定着させたい I C T 機器に関するスキル（コンピュータ、タブレット P C、情報モラル）を一覧表にまとめ、次年時につなぐようにした。

	コンピュータの活用スキル	タブレット P C の活用スキル	情報モラル
低学年	パソコン室のきまり、マウス・ソフトキーボードの使い方、画面移動、サイズ変更など	タブレットを使用する約束、起動・終了方法、写真撮影、お絵かきなど	パソコン室の使い方、パソコンのルールやマナー、著作物の大切さなど
中学年	ローマ字入力、フォント・サイズ・色の変更、印刷、インターネットでの調べ学習、文章処理ソフト・表計算処理ソフト・プレゼンテーションソフトの使用方法など	写真撮影、電子黒板に転送（xSync）、データの保存方法、印刷方法（パソコン室へのプリンター）、インターネットによる調べ学習など	著作権と肖像権、有害サイトへの対応、掲示板の正しい使い方など
高学年	自分のパスワード・ID、インターネットによる調べ学習、各種ソフトウェアを活用したまとめ学習など	xSync を活用した電子黒板への転送、意見や考えの共有など	ネット依存、情報発信をする時の注意点や責任、ネットいじめなど

IV 成果と課題

<成 果>

- ・ タブレット P C と電子黒板との連動により、互いの考えを画面に書き込んだり比較したりすることで、タブレット P C 活用の幅が広がった。
- ・ タブレット P C の特性を生かした活用により、「学びあい学習」をスムーズに行うことができ、コミュニケーション能力の向上につながっている。
- ・ 児童がタブレット P C のデータや写真を印刷したり、撮った写真やデータを保存したりすることで、次の授業や評価にも活用することができる。
- ・ 学習問題を調べたり、資料を保存したり、考えを表現したりする一連の活動を、タブレット P C で行うことにより、児童が問題解決的な学習に取り組みやすい。
- ・ 年間指導計画（タブレット P C）や実践記録表、I C T 活用スキルの活用によって、発達段階に応じた児童の I C T 活用能力を伸ばすことができた。

<課 題>

- ・ タブレット P C の活用方法について、共通理解や情報交換の場を設定する必要がある。
- ・ 実践を積み重ねながら、年間学習指導計画（タブレット P C）等の見直しを行う。
- ・ 年間学習指導計画（タブレット P C）と I C T 活用スキルの関連性について見直しを行う。
- ・ 40 台のタブレット P C と 3 台のルーターを、複数の学年で使用する際の調整が必要である。
- ・ タブレット P C に不具合が出た場合、何台かの予備を用意しておく必要がある。
- ・ タブレット P C を活用する際、ノート指導や板書の在り方を明らかにする。
- ・ 次期学習指導要領を見据え、神戸小「21 世紀型スキル」につながる授業改善について、今後も引き続き実践研究を推進する。

V 西条市における取組

西条市では、首長の施策に基づき、様々な分野における ICT を活用した地方創生を目指し、市民誰もが ICT の恩恵を受け、ワクワク感・満足感を実感できるまちづくりを推進しています。特に教育分野では教育の情報化に力を入れており、平成 27 年度より「小中学校 ICT 教育推進事業」を全校展開し、授業と校務の情報化が大きく進展しました。

授業分野では、市内全ての小・中学校の普通教室、理科室、音楽室に 70 インチのデジタルテレビ型電子黒板、書画カメラ、主要 5 教科以上のデジタル教科書やデジタルコンテンツ類を整備。特別支援教室には 50 インチ型のデジタルテレビ型電子黒板のほか、特別支援学級に在籍する子どもたちには、一人 1 台分のタブレット PC を配布しています。

また、校務分野では、教職員用グループウェア、統合型校務支援システム及びテレワークシステムを整備。校内全域への校内 LAN の敷設、超高速インターネット、さらにはネットワーク強靱化のためのデスクトップ 2 層化及びこれらの教育系システムを支える教育クラウドを構築するとともに、ICT 支援員の巡回配置も実現しました。

これらの取組は全て、次期学習指導要領を見据え、その効果的な実現を図るために、これまでの学校文化の良さを継承しつつこれを見直すこと、いわば「教育の革新」を図るものであり、子どもたちの学ぶ意欲と確かな学力の向上、コミュニケーション能力の育成、学びあい、人間的なふれあいを確保するためのツールとして、教育分野においても幅広く ICT を活用しています。

小中学校ICT教育推進事業

- 全教室に**電子黒板等**を設置し、より分かりやすく質の高い授業を行います。
- **校務支援システム**を導入し、子どもたちと向き合う時間を確保に努めます。
- 全校に **ICT 支援員**を巡回配置し、先生らの利活用を総合的にサポートします。



電子黒板・デジタル教科書類



ICT 支援員



校務支援システム

1 整備の内容

■ハードウェア類

普通教室・理科室 (小・中学校35校=372室)  70型 <基本構成> ■電子黒板本体 ■書画カメラ ■電子黒板用パソコン ■ブルーレイレコーダー兼地デジチューナー	特別支援教室 (小・中学校35校=110教室)  50型 ※iPad本体は対象児童数(322名=322台)
音楽室 (小・中学校35校=35教室)  70型	屋内運動場 (小・中学校35校=35室)  ※5000lm <共通事項> ■当該機器類は、既設の校内LANに接続して使用する。(屋内運動場用プロジェクタを除く。) ■電子黒板には、地デジアンテナを接続する。 ■各年団における教室数の増減により、当該機器類は学校間で移設を行う場合がある。

市内全ての小・中学校35校の普通教室、理科室、音楽室、特別支援教室に、電子黒板・書画カメラ等を整備するとともに、特別支援学級在籍児童・生徒には、1人1台のタブレットPCを整備しています。

■ソフトウェア類

デジタル教科書類 (小・中学校35校)  <table border="1"> <tr> <td>国語 1～6年生</td> <td>算数 1～6年生</td> </tr> <tr> <td>社会 3～6年生</td> <td>理科 3～6年生</td> </tr> <tr> <td>音楽 1～6年生</td> <td>生活 1～2年生</td> </tr> </table>	国語 1～6年生	算数 1～6年生	社会 3～6年生	理科 3～6年生	音楽 1～6年生	生活 1～2年生	学習者用ソフトウェア (小・中学校35校)  ■映像データベース ■問題データベース ■xSync、xSyncWeb会議システム ■ネットモラル教材 ■デジタル掛図、学習探検ナビほか
国語 1～6年生	算数 1～6年生						
社会 3～6年生	理科 3～6年生						
音楽 1～6年生	生活 1～2年生						
校務支援システム (小・中学校35校)  <主な機能> ■名簿情報管理 ■出欠席情報管理 ■指導要録作成 ■成績処理 ■通知表作成 ■保健管理 ■調査書作成 ■徴収金管理 ほか	テレワークシステム (全教職員対象)  <主な機能> ■テレワーク ■デスクトップ仮想化 ■ワンタイムパスワード ■クラウド化 ■セキュリティリスク軽減						

教育系クラウドシステムを基盤とし、電子黒板に付随するデジタル教科書、学習者用ソフトウェア、校務支援システム、テレワークシステムも構築しています。

2 成果

本事業では、ICTを活用したわかりやすい授業を行い、子どもたちの学力を向上させるとともに、校務の情報化により教職員の負担を軽減し、子どもたちと向き合う時間を創出することを事業目的とし、今日まで市内全ての小・中学校（35校）で取り組んできました。

これらの取組により、全国標準学力テストでは前年度比5.34点の上昇、平成28年度における全国学力・学習状況調査では、昨年度と比較して、全国比で11点もの上昇（小学校）を果たすなど、大幅な学力の向上が図られています。

そのほかにも、校務支援システムやグループウェア等を導入したことにより、まだまだ途中段階ですが、教員1人当たり年間114.2時間の校務の効率化が図られ、教員が子どもたちと向き合う時間を創出することができました。



※ 1年目（平成25年度）、2年目（平成25年度）、4年目（平成28年度）

■児童・保護者らの声

児童

タブレットで答えたものが電子黒板に送られて、友達の回答もすぐに見れて、勉強が好きになりました。

でんこくばんなどをつかってじゅぎょうをやって、ぜんぶのきょうかがおもしろくなった。そのおかげではっぴょうがいっぱいできるようになりました。

デジタル教科書は、算数だと図形がわかりやすく考えることができます。

子どもたちにとっては電子黒板に書く楽しみができたようで、よく発表するようになりました。

子どもは、すごくわかりやすく楽しいと言っています。書くこととともに両立していければいいと思います。

私は、電子黒板が入ってから授業がとても楽しく、好きになりました。

保護者

■教職員らの声（授業の情報化に関すること）

教師

電子黒板を使った授業で授業の幅が広がり、自分自身もワクワクしています。大きな画面に映し出された映像を子どもたちは食い入るように見えています。

待ってました！とても嬉しく思っています。必ずや有効活用して、西条市の子供たちの未来のために役立てていきたいと思っています。本当にありがとうございました！

ICTの全校展開、本当にありがとうございます！電子黒板で授業の幅が広がり、子どもたちの学習意欲も大きく高まったのを実感しています！

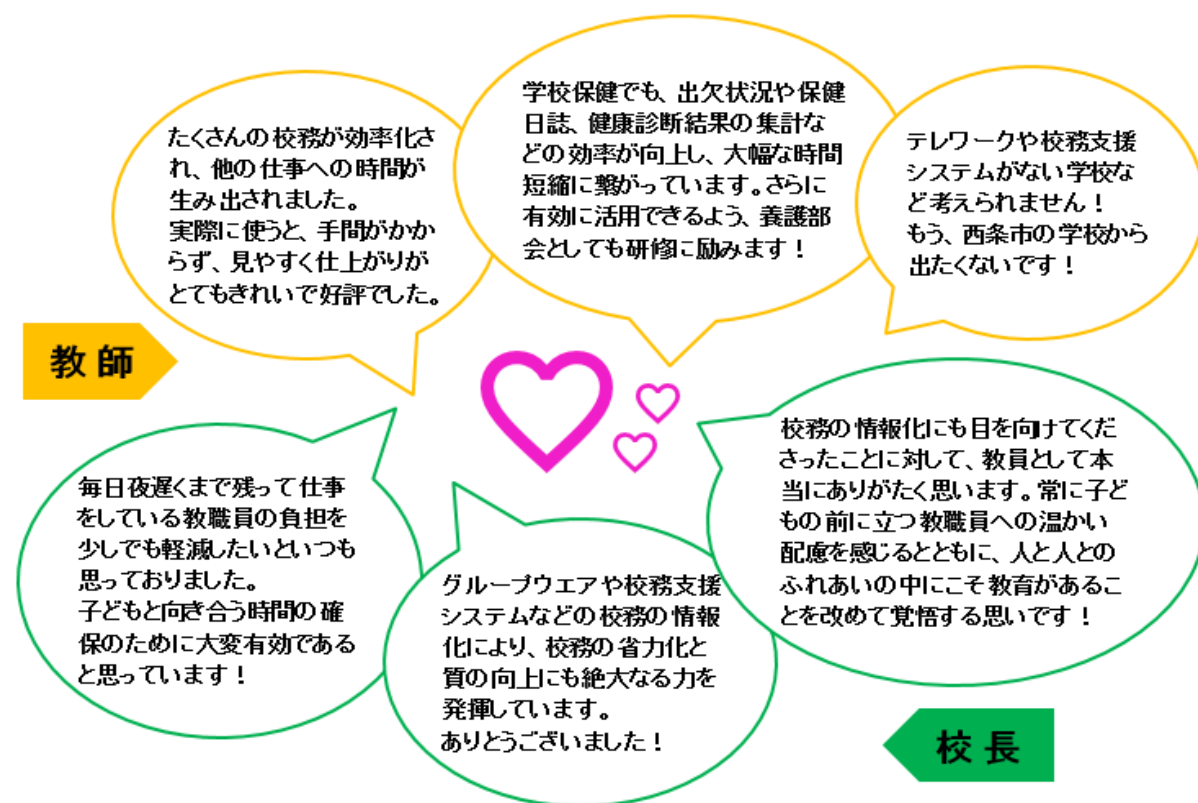
私たち現場の教員は、西条市の宝をより輝かせる役割を担うことを誇りに思い、さらに力を尽したいと思えます。誠にありがとうございました。

かねてからこうなればと考えていたことが、いよいよ実現するのかもしれないと思うとワクワクしてきます。教育効果は計り知れないものがあると思います！

電子黒板を使った授業は、大変わかりやすいものだと感じています。大きな画面に映し出された映像を子どもたちは食い入るように見えています。

校長

■教職員らの声（校務の情報化に関すること）



校務の時間短縮ベスト10！	項目
1位	成績処理
2位	通知表
3位	回覧・調査
4位	指導要録
5位	保健管理
6位	出欠席管理
7位	教材作成
8位	連絡メール
9位	名簿類
10位	調査書

※校務支援システムの導入により大幅に短縮された校務

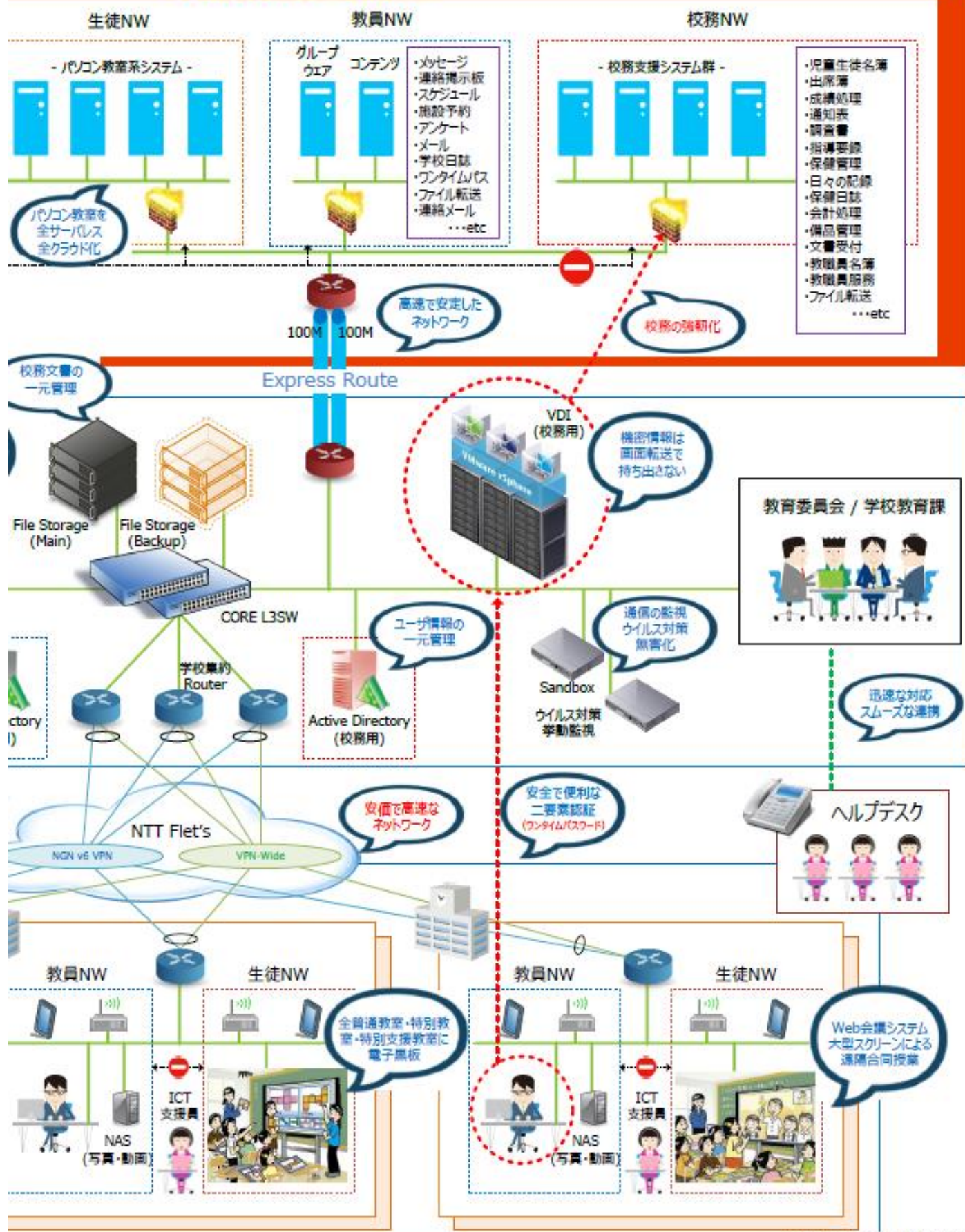
↑ 簡単で使いやすい ICT 環境を目指して
（電子黒板メニュー画面の一例）

← 校務時間の短縮ベスト10！

[illegible]



Microsoft Azure



画像出典：文部科学省ホームページ

システム全体構成図

図番	1-1-1
作成日	2017/04/01
版数	1.0

3 校務の情報化について

グループウェアの活用による校務情報化と校務軽減について 『学校用グループウェア ミライム』

西条市では、平成23年度より学校用グループウェアの「ミライム」を導入しています。

職員会議等にかかる時間の大幅な短縮、ペーパーレスでの職員会議や職員室の行事黒板の廃止を実現しています。教育委員会と学校間の連絡や調査統計などもすべてミライムを利用し、教職員だけでなく教育委員会の業務の効率化にも役立っています。

現在、校務に関わるシステムやソフトウェアのほとんどをミライムから起動できるようになっており、校務・業務のポータルとしてミライムが無くてはならないものとなっています。

また、今年度より、業務時間の実態把握および改善に向けた取り組みとして、西条市の意見をもとに開発が進められたミライム出退勤システムの運用を開始しました。

(1) 機能と主な利用例

○トップ画面で、行事（年休・出張情報）、連絡事項を確認しています。

The screenshot shows the 'Miraimu' web application interface. At the top, there's a header with the date '2015年10月23日(金)' and a user greeting. Below this, a navigation menu on the left includes options like 'ポータル', '全校スケジュール', 'スケジュール', '施設設備予約', '電子掲示板', 'アンケート', 'リンク', '個人メニュー', 'メッセージ', 'ESnetメール', 'メモ帳', 'ユーザ情報', 'ログアウト', and 'アプリケーションメニュー'. The main content area is divided into several sections: '今日の予定' (Today's Schedule) showing school hours and holidays, '明日の予定' (Tomorrow's Schedule), '行事・出張情報' (Events and Travel Information) with a detailed calendar view, '連絡事項' (Contact Information), and '最新のメッセージ' (Latest Messages). A sidebar on the right contains 'お知らせ' (Notice) and '最新のメッセージ' (Latest Messages).

○掲示板

- ・校内での情報共有
- ・教育委員会からの全体連絡

○他システム起動

テレワークシステム
外部メール
WEB サイト
様式集
職員室フォルダ
保護者連絡メール
ほか

○スケジュール

- ・行事・出張・年休の管理
- ・学校日誌の印刷

○メッセージ

- ・個人やグループ間での連絡
- ・教育委員会と学校との連絡

○施設設備予約

- ・施設や設備などの予約管理
- ・代教管理など

（２）各機能の活用事例

ア スケジュール機能

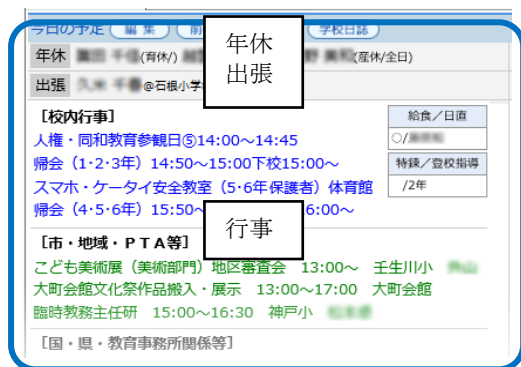
行事・年休・出張の管理や学校日誌の印刷に利用しています。全校が各校独自の行事予定(Excel、一太郎等)を一括で取り込んでおり、職員室の行事黒板への転記を廃止しています。

さらに、年休・出張などの情報が反映された学校日誌を、ミライムから西条市の様式で出力しているため、学校日誌にかかる時間は手書きの頃より大幅に軽減されています。

また、各校の行事予定を一覧で確認できるので、行事予定表（紙面）を各校から毎月集める運用は廃止しています。各校と教育委員会で行事管理の負担が軽減されています。

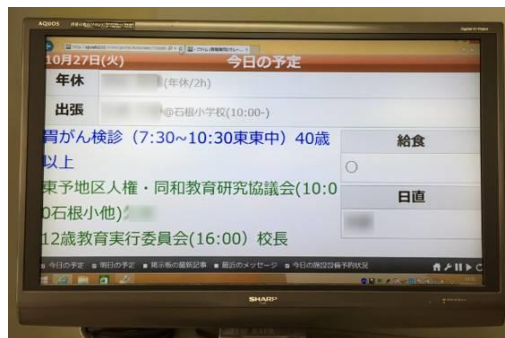
○今日の予定・明日の予定

朝は必ず行事等の情報をトップ画面で確認しています。



○大型テレビ表示

職員室の大画面テレビからも
行事を確認できるようにしています。



これらの情報は学校日誌へ出力されます。

○1か月の予定

校内の月行事予定を一覧で閲覧できる仕組みです。過去・未来の行事がミライムで簡単に確認できます。

2015 年度 中学校の2015年10月の予定

 行事をエクセル形式でダウンロード
   日付で指定する  :

日付	時間割	校内行事	校外行事(出張等)
10/01(木)	短1短2短3 短4短5短6  ☐ 日置 ☒ 松本	5 分短縮授業	入学説明会 (11:30城南)  情報化推進委員会(13:30市役所) 校長 事務共同実施推進主任会(14:00市役所) 
10/02(金)	短1短2短3 短4短5短6  ☐ 日置 ☒ 松本	5 分短縮授業 特別文庫野外活動 (8:00香川)  教育事務所訪問(14:00校長室) 職員会議15:45 反省会18:30 66	学校により行事の 時間割や提出物の 利用しています。
10/03(土)			秋多運動会 (9:30) 

学校により行事項目は様々です。
時間割や提出物の締め切りにも
利用しています。

2015 年度 中学校の2015年10月の予定

月行事の参照 行事をエクセル形式でダウンロード

今月 ◀ ▶ 前月の月 ▶▶ 次の月の月 ▶▶ 日付で指定する 他組織のスケジュール: [選択] 富山県立中学校 ▼

日付	提出物・その他	行事予定	出張等
10/01(木)	今治開港入道説明会 (延期) 結果 募集	1 5分総務授業 (井田) 2 テスト発表 3 文化祭係表 123456	事務共同実施 (14:00迄安小) 東予地区中学生新人ソフトテニス大会準備会 (19:00新居浜西中) (幹事)
は様々です。 め切りにも	第70回市民体育大会 中央公民館役員が研修参加 中央公民館役員が研修参加 結果 募集 日程表 結果 募集 日程表	1 平楽授業 特別支援学校野外活動 (レオマワールド) 123456 事務情報班 (14:00図書室) 新人歓迎会 (18:30五味島)	第70回国民体育大会和歌山陸上競技支振指導 (校長) 人権バスター人權模範 (15:00円原文化会館津浦南) (幹事)
10/03(土)	体育館貸与 (雨天時北澤保育所) 結果 募集	退体日 体育館貸与 (雨天時北澤保育所) 結果 募集	第70回国民体育大会和歌山陸上競技支振指導 (校長)

○他校の予定

校 外 行 事	
	101 西条小学校
	102 神津小学校
	103 大町小学校
	104 玉津小学校
	105 飯岡小学校
	106 神戸小学校
	107 旗理小学校

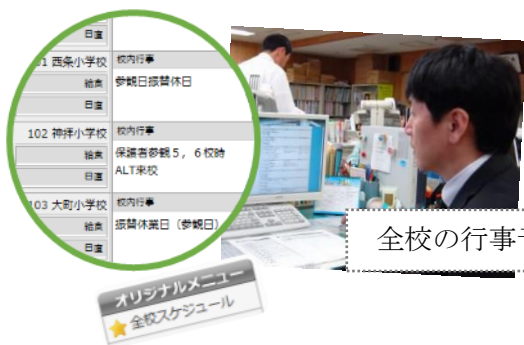
教科研修会 小学校算数部会 16:00大町小学校長

学校を選択するだけ

学校間での行事確認や日程調整に活用できるよう、他校の行事や教育委員会の予定も学校から確認できるようにしています。

○全校の予定

メーカーが西条市の要望を取り入れ、行事予定の全校一覧表示と校長による承認機能を開発してくれたので、月行事予定表を紙面で回収する運用を廃止できました。



全校の行事予定の確認



校長承認の確認画面

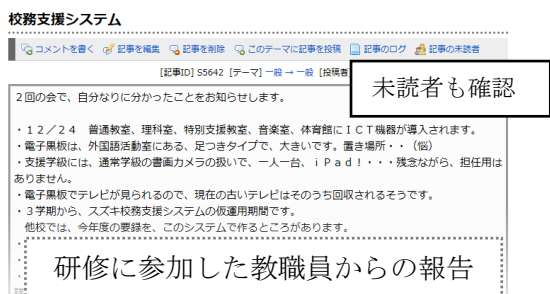
イ 掲示板機能

掲示板機能は、校内での情報共有や、教育委員会から全校への周知に利用しています。

学校では、会議などでの口頭と紙媒体による連絡をやめ、30秒程度で終わったり会議自体を無くしたりしている学校も多くあります。その結果、ゆとりをもって朝学習や1時間目に臨めるようになっていきます。

また、資料も掲示板上で教職員がそれぞれ確認できるので、紙を印刷して配布する必要が少なくなり、紙の利用やトナー代が大幅に節約できています。

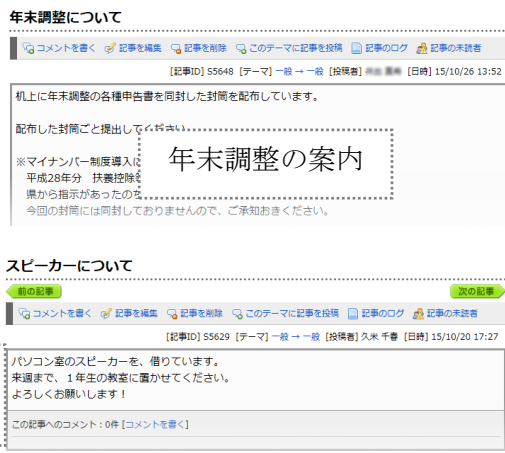
○掲示板記事の実例



未読者も確認

研修に参加した教職員からの報告

職員室黒板に書いていたようなことも
ミライムで周知



※マイナンバー制度導入に
年末調整の案内

スピーカーについて

パソコン室のスピーカーを、借りています。
来週まで、1年生の教室に置かせてください。
よろしくお願いします！

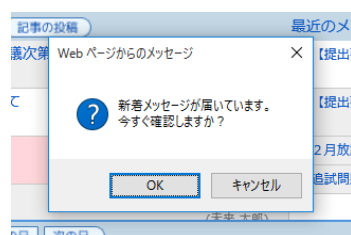
ウ メッセージ機能（イントラネットメール）

メッセージ機能は、個人やグループ（校長会・事務職員部・各種委員会等）での連絡に利用しています。電話やFAX、メールより効率的なので、教職員全員が日頃から活用しています。

メッセージの受信通知を携帯電話でも受け取れる仕組みを利用したり、指定時間に自動的にメッセージが送信される機能を利用したりと、細かな機能もフル活用しています。

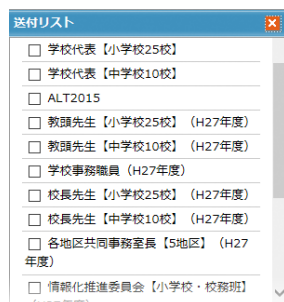
教育委員会と教職員間の連絡も、運用ルールに従って有効にメッセージを活用しています。

○メッセージの到着通知



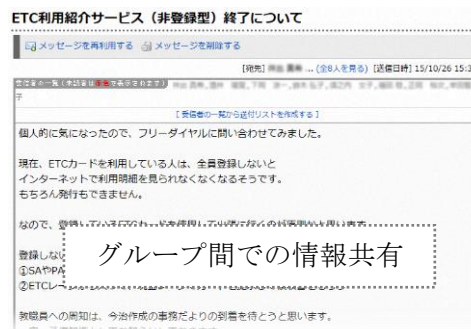
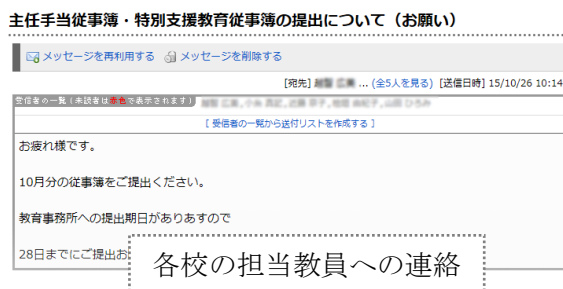
メッセージが届くと、見逃さない仕組みがあるため、確実な情報連絡が実現できています。

○グループ送付リスト選択画面



グループ内の教職員を簡単に宛先に指定できる仕組みも、全教職員が利用できるようにしています。

○メッセージの実例



○ファイル回収

メッセージのファイル回収機能は、西条市の要望から実現したもので、担当者から指導案などを集める際に活用しています。

提出されたデータは自動的に一カ所に集まり、リアルタイムでデータを確認したり未提出状況も確認したりできるので、教育委員会にとって大変便利な機能となっています。

エ アンケート機能

アンケート機能は、校内や学校間、教育委員会から学校への調査・統計に利用しています。ミライムの機能の中で一番好評な機能と言われているほど有効に活用しており、教育委員会と学校の双方の負担が大きく軽減されています。

校内では、運動会などの行事の反省や学校評価などに利用し、学校間では、委員会の出席確認や研究授業後の調査、会議や研修の日程を決定するための調査に利用しています。

○校内アンケートの実例

【7/7まで】研究推進会（議大会分科会）の開催日程について」

📄 様式ダウンロードする 📄 アンケートをダウンロードする 🖨 印刷する 📄 複製して再利用する

参加可能な日を選択してください。一様票をダウンロードする

日時	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	31日	
7/22 AM																																
7/22 PM																																
7/23 PM																																
7/27 AM																																
7/27 PM																																
7/31 AM																																
8/6 AM																																
8/6 PM																																

上記日曜で参加出来るが、実地どうかわからない日曜はりますか？→一様票をダウンロードする

7/23日、議場での電子投票機も使用予定の観です。参加ご希望の方は、
1. 投票機・・・ごめんなさい。
2. 投票機・・・ごめんなさい。お持ちの投票機が使用出来る方が多いと思います。

開催日決定のためのアンケート

扶養手当についての問題です。H26.2.5 吉井小編	出前研修費(手当金)アンケート H26.2.5 吉井小編
テキストを参考に回答をお願いします。 経路があれば、自分の扶養手当支給額を確認してみましょう。 扶養手当について (1) (必選) 大学の子がアルビオンを始めた。月8万円の収入予定であったが、アルビオンの月の収入の平均が1万円となった。扶養手当の取り扱いはどうなるか？ ☐ 取り消す必要はない ☐ 取り消さなくてはならない 扶養手当について (2) (必選) 妻1子1女はアルビオン先からならぬか？ ☐ 計1子1女でいいかい ☐ 計2子1女でいいかい 扶養手当について (3) (必選)	出前研修費(手当金)アンケート H26.2.5 吉井小編 【所属】 卒田穂子 【読後日時】 15/07/23 11:45 本日はご多忙中、出前研修を拝読していただきありがとうございます。 今後の研究の参考とさせていただきますと考えておりますので、よろしく、お願いいたします。

○教育委員会から学校への調査の実例

[24040] AED定期点検表及び結果報告書（11月分）

【学校】 福富 【区画】 【寄附者】112 南小中学校...【金25人を見守る】15/10/23 08:31

各小・中学校
AED定期点検表及び結果報告書担当番様

いつもお世話になっております。
11月分のAED調査報告を行いますので、期限までに回答を
よろしくお願いいたします。

返信期限：平成27年11月10日（火）

公共施設担当者名(必須)
校舎名を記載してください
市練馬消防室(必須)
担当者を記載してください
点検日（年月日）(必須)

「正確な記入をお願いします」の表示がなくなります。

AED 調査

平成27年度第2学期の始業式について

[ラベル] 編集 [読書音] [印刷] [受取番号] 112 南帯小学校...[\(全35人を見る\)](#) [読書日時] 15/08/28 17:55

各小中学校長様 様

2学期が始まります。
始業式の報告をお願いいたします。

9月1日（火）の午後1時までにアンケートにご回答ください。

始業式は、無事終了しましたか。（必須）

☐ はい
☐ いいえ

例) 1年 欠席5名 (登壇2名、発熱1名) 主簿停止1名 (インフルエンザ) 2年・・・合計10名

出席女子: 1名 (発熱1)
出席男子: 1名 (発熱1)

始業式・終業式の報告

台風15号による学校への影響（施設・設備被害等）に関する調査報告について（8月25日（火）9：00までに報告）

【学校名】 編集 送信 印刷 【電話番号】 112 南小中学校 へ 【記入者名】 【送信日時】 15/08/23 08:40

各小中学校長様
ご担当者様

このことについて、下記のとおり調査を行いますので、ミライムアンケートにてご報告ください。

第一報：8月25日（火）9：00までに報告
施設・設備の被害一巡。第一報報告後、新たに発見した場合もその都度速やかに上書きでその都度報告してください。

施設・設備の被害状況(省町町)

現在時点で該当する項目に○を入れてください。被害発生後、その都度速やかにご報告ください。

☐ ア 被害なし
☐ イ 被害あり
☐ （選択なし）

イを選択した場合、被害状況を教えてください。（省町町）

（例：体育館の雨漏り、校庭の木が2本折れた。）

台風の被害調査

自宅等への被害を受けた場合・全壊した場合は

「西条っ子学びの向上推進事業」学力診断調査の実施人数調査について

【市川】 編集 【送信者】 市川 幸子 【受取者】 112 高市小学校 (全35人を見込) 【送信日時】 15/10/23 14:29

横沢の件について、西条第1521号にてお知らせしましたとおり小学5年生（国・算）、中学1年生（国・英・数・社・理）を対象として実施することとなっております。

つきましては、テスト用紙の発注をしますので、各学校の学力診断調査の対象人数、クラス数を回答願います。

【回答期限】10月28日(水)

※クラス数は、実施する教科ごとの数を回答。（教員向け手引書等の関係です。）

※特別支援学級の児童・生徒については、保護者へ実施の希望をお聞きの上え回答ください。

実施する人数は何人ですか？(必須)

27

実施するクラス数は何クラスですか？(必須)

1

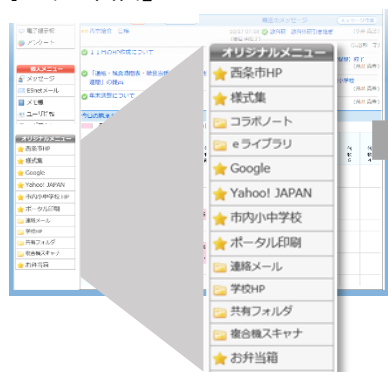
回答を送信する

オ 他システムの起動について

ミライムから、テレワークシステムをはじめとして、様式集や保護者への連絡メール、職員室の共有フォルダなどが、全教職員の画面からいつでもすぐに開く仕組みにしており、ミライムを校務のポータル（入口）として利用しています。

○オリジナルメニューの画面

『トップ画面』

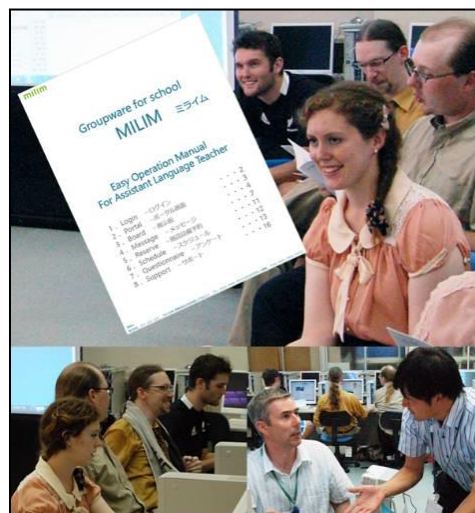


西条市立学校 様式集	
西条市教育委員会	
西条市内の学校で利用している様式がダウンロードできます。該当する欄の右端のアイコンをクリックしてください。なお、その他の様式については、 こちら をクリックしてください。	
I 学校行事	▶
休開関係、儀式、給食指導、自然の恵、遠足、校外運動競技、その他校外活動	
II 児童生徒	▶
学業、教育扶助、進学指導、教材、生徒指導、事故報告書、特別支援教育、指導要録	
III 学校保健・給食	▶
学校保健、給食	
IV 人事	▶
特別支援教育支援員関係、臨時・パート職員雇用関係	
V 服務・研修	▶
勤続、出張、休職、校外勤務、離職、研修承認、私事旅行、教科・教科外主任、5・10年研修会、部活動、事故連絡	
VI 財務・施設	▶

西条市共通様式集のダウンロード画面

（３）ALT の利用について

西条市では、ALT もミライムを活用しています。これは ALT の方々の、学校に参加したいという強い想いからでした。現在では、ALT 同士の連絡だけでなく、掲示板を確認したり施設を予約したりして校内の教職員として利用しています。ミライムを積極的に活用し、学校に参加してくれている ALT の方々、ALT 向け研修の実施や英語版のテキストを作成してくれたメーカーに感謝しています。



（４）最後に

西条市では、前述のように学校現場の全教職員と教育委員会がー丸となってグループウェアの活用を積極的に行っており、学校現場に行くと当たり前のようにミライムを利用している光景を見ても、導入してよかったと実感しています。これからも、教育委員会として、校務の負担を軽減できる部分については小さなことであっても積極的に簡略化したり、廃止していけるよう、常にグループウェアの運用を改善していきます。

○ミライムに関するお問い合わせ

株式会社ミライム TEL:089-968-6840 MAIL:info@milim.jp HP: <http://www.milim.jp/>

校務支援システムの活用による校務フローの統一化・標準化について

『校務支援システム スズキ校務シリーズ』

西条市では、平成27年度に校務支援システム「スズキ校務シリーズ」を導入し、運用試行期間を経て、平成28年度より市内全ての小・中学校で運用を開始しています。

校務作業や帳票類の簡素化・全国標準化により、教職員の負担軽減及び子どもたちとふれあう時間の確保など、様々な効果が見られました。

校務支援システム活用の主な効果について、以下のとおり報告します。

(1) システム化を実施した業務

今回選定された校務支援システムでは、必要な機能を業務区分ごとに選んで導入することができます。西条市では、以下の業務をシステム化することと決めました。

- 名簿作成
- 出席簿作成・出欠状況
- 成績処理
- 通知表作成
- 指導要録作成
- 調査書作成
- 保健室業務



(2) 導入効果

校務支援システムの導入によって、具体的な効果が上がった点について以下の4点が挙げられます。

ア 学習・生徒指導情報の一元管理

校務支援システムを導入することにより、情報が一か所に集約され一元管理できるようになりました。それにより、個々に管理する手間が削減されるだけでなく、児童・生徒の様子なども担任個人に限らず、学校全体で教職員が迅速に共有することができるようになりました。

〈詳細名簿〉付帯情報も学校ごとに項目を編集し一元管理

イ 一元管理したデータを学校経営に活用する

システム上に登録すべき情報等が標準化されることにより、児童・生徒それぞれの出欠状況の把握や、学習状況の把握を行うことが容易になり、迅速かつきめ細やかな指導ができるようになりました。

	欠席率	10	20	%	前日比	在籍	出席	欠席	春
1年1組	2.44				+1	41	40	1	
1年2組	0.00				-	40	39	0	
1年計	1.23				+1	81	79	1	
2年1組	0.00				-	38	38	0	
2年2組	2.50				+1	40	39	1	
2年計	1.25				+1	78	77	1	
3年1組	7.50				+2	40	37	1	
3年2組	5.13				+2	39	37	2	
3年計	6.33				+4	79	74	5	

出欠黒板により、出席簿に入力した内容がリアルタイムで確認できます。
条件を指定して長期欠席者を抽出など様々な分析も可能に。

ウ 成績処理や通知表・保健管理の標準化

市内統一した校務支援システムを導入することで、成績処理に関する業務が標準化されました。それにより、保護者への説明や進路関係の書類にも信頼性が高まり、かつ迅速に対応することができるようになりました。また、保健室業務を統一することにより、養護教諭の事務負担を減らすだけでなく、児童・生徒に関する様々な情報を一貫してシステム上で管理することができ、スムーズな引継ぎができるようになりました。

エ 校務フローの統一化

統一したシステムを導入することで、校務フローを統一化し、教員の異動があった場合でも円滑に校務に取り掛かれるようになりました。また今回の校務支援システムの導入を契機とし、様々な校務フローを大幅に見直すべく西条市情報化推進委員会を中心に検討を重ねました。このことにより、今まで曖昧だった部分や各個人で行っていた業務などを見直し、児童生徒情報の意見交換や指導に関する検討に当てる時間を増やすことができました。

以下、各業務の校務支援システム導入によって具体的にどのように変わるかという内容をまとめました。

名簿作成

従来、教員が個々に表計算ソフトなどで名簿を作成していました。作成や転出入があった場合などの更新作業に約 10 分～15 分程度要していたところが、校務支援システムの導入により各教員が行うことは、必要な名簿様式を選んで印刷するだけになりました。名簿の様式は学校ごとにオリジナルのものを編集することができ、1度作成した様式は校内共通で使えるため、個々に作成する必要はありません。転出入情報も、基幹となる名簿にて登録を行えばすべての名簿に反映されるため、名簿を個々に更新する必要がありません。



〈名簿印刷〉印刷したい名簿を選ぶだけ

出席簿作成・出欠状況確認

西条市では、校務支援システムの導入にあわせて、位の出席簿を採用し、記載すべき情報を必要最低限に絞り、作業効率の向上を図りました。校務支援システムの導入により、従来出欠状況の集計や伝達に時間がかかっていた出欠状況確認業務が、登録した即時自動集計されるようになり大幅な時間短縮が実現できました。更に、連続欠席・累計欠席をしている児童生徒を絞り込み確認することも容易になり、各個人の傾向も容易に把握できるようになりました。

	欠席率	10	20	%	前日比	在籍	出席	欠席	率
1年1組	244				+1	41	40	1	
1年2組	000				-	40	39	0	
1年計	123				+1	81	79	1	
2年1組	000				-	38	38	0	
2年2組	250				+1	40	39	1	
2年計	128				+1	78	77	1	
3年1組	750				+2	40	37	1	
3年2組	519				+2	39	37	2	
3年計	639				+4	79	74	9	

〈出欠状況〉登録された情報は自動集計

成績処理

従来、成績処理については、教員が個々に様々な方法で算出・出力を行っていましたが、校務支援システムの導入により当該業務が標準化され、作業効率と信頼性を向上させることができました。また、校務支援システムでは 評価対象となるテスト結果や日々の成果物（小テストや授業態度など）を点数や段階評価で記録し蓄積することができ、それらを自動集計して評価・評定を算出できます。



通知表・指導要録・調査書

通知表は、作成方法を統一しながらも各校に合わせた通知票を作成できることにこだわりました。通知票は各学校長の権限で変更できる事、その時代に合わせたものを作成しなければならない事、現状維持ではなくより良いものを模索し続ける事が必要と考えており、それが条件でもありました。今回のシステムでは学校ごとに通知表のレイアウトを独自に編集することができます。

保健室業務

養護教諭は各校 1 人で保健室の管理や学校全体の欠席の管理等を行う必要があり、保健管理システムは必須でした。

保健管理システムについては、西条市の養護部会を中心とし、その統一的かつ理想的な運用に向けて活発に検討を重ねています。従来は学校ごと、養護教諭ごとに様々な環境・方法で記録されていた児童・生徒の保健情報を、一貫してシステム上で管理することができ、スムーズな引継ぎができるようになりました。

未登録記録を登録することができます。
 (登録登録)ボタンをクリックすると、再度、未登録記録の登録画面を表示します。

日付(D): 2015年 5月 7日 (木)

時刻(T): ☒ 登録する 15:00

観戦(U):

氏名(N): 1年 2組 2番 石野 真弓

未登録理由

◎ 竹矢(J)	竹名名(D):	場所(P):	手当て(L):
☐ 南矢(2)	☒ 竹矢 真弓 石野 真弓	☐ 特別指定	☐ 外野手
☐ 保健室登校(J)	☐ 保健室登校	☐ 廊下階段	☐ 定宿舎
☐ 健康相談(J)	☐ けいけん	☒ 特別指定	☐ 休養室
☐ その他(J)	☐ けいけん	☐ フール	☐ 病院へ
	☐ けいけん	☐ 半席指	☐ その他
	☐ けいけん	☐ 校外	☐ 平道
	☐ けいけん	☐ その他	

〈来室記録〉統一された登録フォーマット

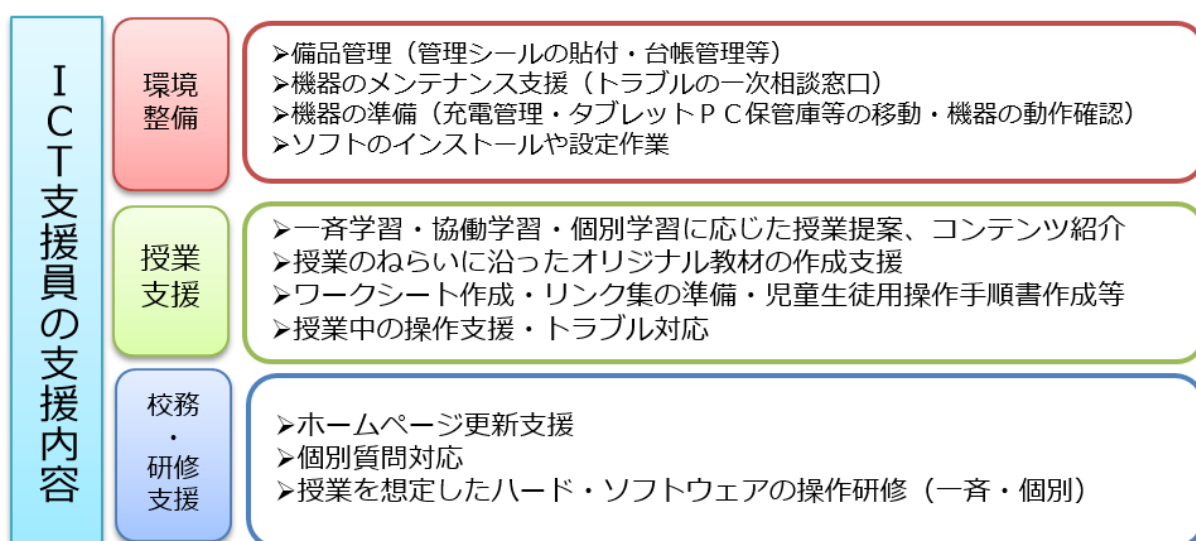
○スズキ校務に関するお問い合わせ

スズキ教育ソフト株式会社 TEL:053-444-0080 HP : <http://www.suzukisoft.co.jp/>

4 ICT支援員について

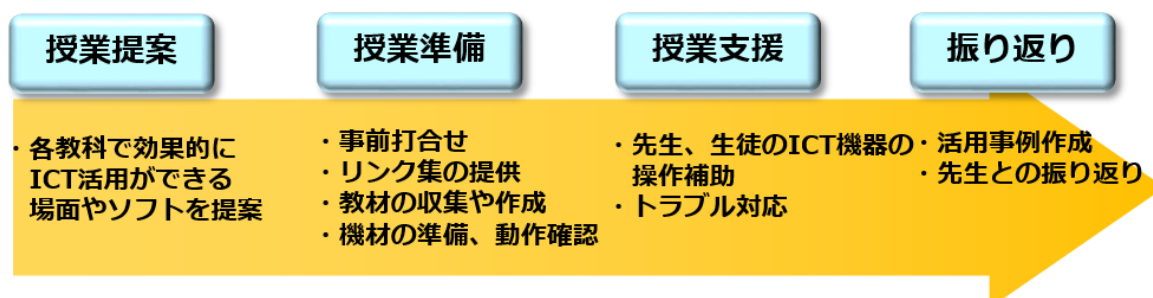
電子黒板類や校務支援システムなどのICTを有効に利活用するためには、先生のICTの活用指導力を向上させることが極めて重要です。そのためには、先生にとってのICT活用の敷居を低くすることが必要だと考えています。先生方の準備の負担を軽減し、困ったときにすぐに相談でき、安心して指導にあたることのできる環境づくりをすることが極めて重要です。

これらの理由から、西条市ではICT支援員を市内の小・中学校に巡回配置することとしました。現在、市内在住者より雇用した11名のICT支援員（派遣委託先として採択された㈱ベネッセコーポレーションが雇用）が、1校あたり月2回～5回程度、1回あたり8時間、それぞれ担当校を定め、各校を巡回しながら支援を行っています。



授業支援

電子黒板、プロジェクタ、デジタルTV、タブレットPCを効果的に利活用した授業が展開できるように先進地区、近隣地区での実践事例をもとに、**ICT機器の活用場面、教材紹介、機器の準備、動作確認、授業支援、振り返りを実施**しています。



教材作成支援

ICT活用を行ったうえでの各単元における指導・学習効果という観点を大切にしたい取り組みを行っています。これらの教材・提案書をもとに、各ICT支援員が**各単元における指導・学習効果**という観点を大切にしながら教材作成支援を行っています。

例：小学5年生 算数科 合同な図形

単元のためあてとの位置づけ

ICT教材の活用イメージ

学力調査を元にした難易度情報の提供

校務・研修支援

各学校の導入機器・ソフトウェアにあわせた講習メニューを用意し、**要望にあわせてICT支援員による一斉講習会を開催**しています。また、一斉講習会のみならず、支援員の訪問時には**個別の問い合わせに対応**すると同時に、**簡易マニュアルを作成して渡す**などの支援を行っています。

各学校の導入機器・ソフトウェアにあわせた講習メニューの作成

一斉講習

個別講習

講習項目	講習内容や実施例
電子黒板、デジタルTV等の活用	機器の操作方法や取り扱い方、機能
授業支援ソフトの活用	場面に応じた操作や機能（教材配布、画面送信、巡回機能等）
教材作成のためのソフトについて	教材作成時に用いるソフトウェアの使い方（提示に適した構成等）
教育用ソフト操作	教科ソフトの操作方法や使い方や教材登録など効率的な活用
トラブルシューティング	よくあるトラブルへの対応ができるようになる研修

管理職や情報担当の先生と連携して
校内講習を実施

講習メニューに合わせたマニュアルや
資料作成

○ICTサポート業務に関するお問い合わせ

株式会社ベネッセコーポレーション TEL:0120-8888-44 HP: <http://www.teacher.ne.jp/ict/>

5 今後の取組について

西条市では、西条市立神戸小学校をモデル校とし、基礎的・基本的な学力の定着はもとより、所謂「21世紀型スキル」を効果的に培うため、特にタブレットPCを活用したICTの活用に「学びあい学習」の手法を取り入れた実践研究を行ってまいりました。

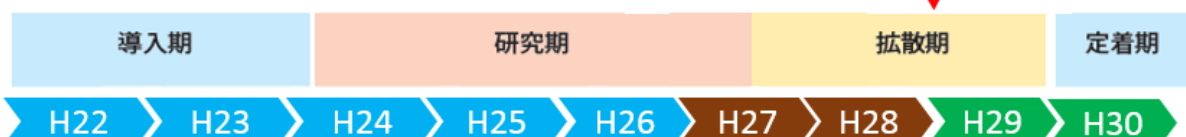
同校では、「タブレットPCと電子黒板との連動により「学びあい学習」がスムーズに行え、コミュニケーション能力の向上に繋がっている。」「学習問題を調べたり、資料を保存したり、考えを表現したりする一連の活動を、タブレットPCで行うことにより、児童が問題解決的な学習に取り組みやすい。」「発達段階に応じた児童のICT活用能力を伸ばすことができた。」などの成果が見られ、同校の教職員らも十分な手ごたえを感じています。

西条市では、次期学習指導要領を効果的に実現するため、今日まで培ってきた「21世紀型スキル」に繋がる授業改善を市内全校に普及するべく、第3期教育振興基本計画（平成30年度～）まで見据え、そのICT環境の整備とともに、準備を進めています。

当然、手書きの良さ、じっくりと辞書をひくことも今までと変わらずに大切なことです。デジタルとアナログ、それぞれの良さをしっかりと使い分けながら、西条市の将来を担う子どもたちの「学力の向上」ひいては「生きる力」を育んでまいりたいと考えています。

■ 整備スケジュール

▶ 事業は深化・拡期の時期



▶ ICT活用スケジュール

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
電子黒板／実物投影機		モデル校			全校導入		
デジタル教科書		モデル校			全校導入		
タブレット／無線LAN				モデル校		全校導入	
校務支援システム		モデル校			全校導入		
グループウェア	全校導入						
校務用コンピュータ	全校導入						
超高速インターネット					全校導入		
ICT支援員		モデル校			全校導入		

第1次整備期

第2次整備期

■ KGI (Key Goal Indicator/重要目標達成指標)

本市では、教育の情報化施策の KGI (Key Goal Indicator/重要目標達成指標)として、子どもたちの学力の向上（平均 7 ポイント UP）、子どもたちとの新たなふれあい時間や教職員が自分自身と向き合う時間の創出（1 人当たり年間 120 時間）を設定するとともに、子どもたちのみならず、ICT の恩恵を受ける全ての利用者への利用者満足度（CS・ES として 90%以上）も高めることを目標としています。子どもたちには学力だけでなく、知・徳・体のバランスのとれた生きる力や、「西条市で学べてよかった」という思いからふるさとを愛する心を育てるとともに、教員にも「西条市で教壇に立ちたい」などの実感や願望を創出し、「**住みたいまち西条**」を実現していきたいと考えています。

学校現場では、ICT の導入を契機に、子どもたちの学習に対する意欲の向上はもちろんのこと、学校を超えた教職員同士の繋がりがどんどん広がっています。そこには ICT だけの繋がりでなく、直接会ったり、学び合ったりすることによる教職員のモチベーションの高まりがあります。そのことこそが ICT の恩恵であり、人と人とが繋がりあう一歩先の未来の社会の理想的な姿ではないでしょうか。

これからの私たちの未来に、どうかご期待ください。



※ ②について … 児童・生徒と向き合う時間及び教職員が自分自身と向き合う時間。

VI その他の取組

— 文部科学省委託事業 —

人口減少社会におけるICTの活用による教育の質の維持向上に係る実証事業

西条市では、文部科学省委託事業「人口減少社会におけるICTの活用による教育の質の維持向上に係る実証事業」に取り組んでいます。

この事業は、学校間の教室をWEB会議システムや電子黒板等で繋ぎ、あたかも教室同士が繋がったような錯覚、バーチャルクラスルームによる合同授業を行い、互いに学び合うことで生まれる効果・価値を見出しながら、子どもたちの学びの充実を図り、小規模校における教育の質の維持・向上を図るといった趣旨の事業です。

本事業では、次期学習指導要領の理念を効果的に実現するため、小規模校のメリットを最大限に生かしつつ、子どもたちに多様な意見や見方に触れる機会を多く創出することで、基礎的・基本的な学力の定着はもとより、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、思考力、道徳心等の育成のため、年間を通じた遠隔合同授業を行なっています。また、本市における「人口減少問題への対応」に資する施策の一つとしても位置づけている事業です。



開催予告！！

11/24

人口減少社会におけるICTの活用による
教育の質の維持向上に係る実証事業研究発表大会

日時 平成29年11月24日(金)

場所 西条市立田野小学校・田滝小学校・徳田小学校・丹原小学校

